

**2021年度**  
**教職・資格（小金井）**  
**講義概要（シラバス）**



**法政大学**

# 科目一覽

[発行日: 2021/5/1] 最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

教職関係科目	<b>[H0501]</b>	教職入門 [田中 一樹] 春学期授業/Spring	1
教職関係科目	<b>[H0502]</b>	教育原理 [川津 貴司] 春学期授業/Spring	2
教職関係科目	<b>[H0503]</b>	教育の制度・経営 [辻本 昭彦] 春学期授業/Spring	3
教職関係科目	<b>[H0504]</b>	教育心理学 [伊藤 隆一] 秋学期授業/Fall	4
教職関係科目	<b>[H0505]</b>	教育課程論 [田中 一樹] 秋学期授業/Fall	5
教職関係科目	<b>[H0506]</b>	数学科教育法 (1) [田神 仁] 春学期授業/Spring	6
教職関係科目	<b>[H0507]</b>	数学科教育法 (2) [田神 仁] 秋学期授業/Fall	8
教職関係科目	<b>[H0508]</b>	数学科教育法 (3) [三橋 秀生] 春学期授業/Spring	10
教職関係科目	<b>[H0509]</b>	数学科教育法 (4) [間下 克哉] 秋学期授業/Fall	11
教職関係科目	<b>[H0510]</b>	理科教育法 (1) [辻本 昭彦] 春学期授業/Spring	12
教職関係科目	<b>[H0511]</b>	理科教育法 (2) [辻本 昭彦] 春学期授業/Spring	13
教職関係科目	<b>[H0512]</b>	理科教育法 (3) [辻本 昭彦] 秋学期授業/Fall	14
教職関係科目	<b>[H0513]</b>	理科教育法 (4) [辻本 昭彦] 秋学期授業/Fall	15
教職関係科目	<b>[H0518]</b>	道德教育指導論 [五十嵐 由和] 春学期授業/Spring	16
教職関係科目	<b>[H0519]</b>	特別活動論 [児玉 洋介] 春学期授業/Spring	18
教職関係科目	<b>[H0521]</b>	教育相談 [伊藤 ひろみ] 春学期授業/Spring	19
教職関係科目	<b>[H0522]</b>	生徒・進路指導論 [児玉 洋介] 秋学期授業/Fall	20
教職関係科目	<b>[H0524]</b>	教育実習 (高) [金沢 誠] 年間授業/Yearly	21
教職関係科目	<b>[H0525]</b>	教育実習 (中・高) [金沢 誠] 年間授業/Yearly	22
教職関係科目	<b>[H0526]</b>	教育実習 (高) [辻本 昭彦] 年間授業/Yearly	23
教職関係科目	<b>[H0527]</b>	教育実習 (中・高) [辻本 昭彦] 年間授業/Yearly	24
教職関係科目	<b>[H0528]</b>	教育実習 (高) [藤井 章博] 年間授業/Yearly	26
教職関係科目	<b>[H0529]</b>	教育実習 (中・高) [藤井 章博] 年間授業/Yearly	27
教職関係科目	<b>[H0533]</b>	幾何学A [間下 克哉] 春学期授業/Spring	28
教職関係科目	<b>[H0534]</b>	幾何学B [三橋 秀生] 春学期授業/Spring	29
教職関係科目	<b>[H0535]</b>	幾何学C [塚田 和美] 秋学期授業/Fall	30
教職関係科目	<b>[H0560]</b>	特別な教育的ニーズの理解と支援 [伊藤 友彦] 秋学期授業/Fall	31
教職関係科目	<b>[H0561]</b>	総合的な学習の時間の指導法 [辻本 昭彦] 春学期授業/Spring	32
教職関係科目	<b>[H1052]</b>	情報化社会と職業 [藤井 章博] 秋学期授業/Fall	33
教職関係科目	<b>[H1710]</b>	教育実習 (事前指導) [田神 仁] 秋学期授業/Fall	34
教職関係科目	<b>[H1711]</b>	教育実習 (事前指導) [辻本 昭彦] 秋学期授業/Fall	36
教職関係科目	<b>[H1758]</b>	教育方法論 [藤牧 朗] 秋学期授業/Fall	37
教職関係科目	<b>[H1860]</b>	教職実践演習 (中・高) [辻本 昭彦] 秋学期授業/Fall	39
教職関係科目	<b>[H1861]</b>	教職実践演習 (中・高) [田神 仁] 秋学期授業/Fall	40
教職関係科目	<b>[H3397]</b>	地学概論 I [辻 忠恭] 春学期授業/Spring	41
教職関係科目	<b>[H3398]</b>	地学概論 II [辻 忠恭] 秋学期授業/Fall	42
教職関係科目	<b>[H3399]</b>	地学実験 [辻 忠恭] 秋学期集中/Intensive(Fall)	43



SEE100LC

## 教職入門

田中 一樹

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教職を志すにあたっての心構えについて、我が国における教育システムと法令等における位置付け、教員に求められる本来の資質と社会からの要求、問題点などについて校外実習も取り入れつつ、具体的実践を中心に検討する。

## 【到達目標】

教職に求められる社会的役割と資質向上への理解を深め、かつ魅力について認識し、教職への志を持続できるようにする。

また、これらを踏まえ、授業計画や行事計画を立案・作成できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

以下の事柄を中心に、講義および校外実習を行い、授業内発表や課題提出などを実施する。

- ・学校および教員に関する法的背景
- ・教員の働き方と課外活動
- ・学校や生徒との関わりの中での安全教育と危険予測

【本年は4月12日を初回授業とします】

※一部対面授業および校外学習があります。（日付は支援システムで通知します。）

※4月26日までに学習支援システムでの履修登録を済ませてください。

※4月12日に、授業の進め方などを学習支援システムにアップしますので、それをよく読んでください。

課題については授業内で発表し、他の学生からの質疑と応答および教員からのコメントをもって課題作成者にフィードバックする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回 4/12	ガイダンス	授業計画・概要・準備についての説明
第2回 4/19	学校と教職	内外の学校や教職についての関連法規 教育課程とその対応
第3回 4/26	授業技術および安全教育	発声や授業運営の実際と問題点 授業、休憩時間、放課後および課外活動中における安全確保と危険予測
第4回 5/10	特別活動【校外活動】	小金井公園にて、引率方法・行事実施方法の演習
第5回 5/17	生徒指導特別活動【実地踏査計画】	生徒や家庭との接触や体罰と指導校外教育を実施するための立案と実地踏査の方法について計画を立てる
第6回 5/24	情報教育	学校外での生活やネットリテラシー
第7回 5/31	特別活動【実地踏査計画】	校外教育を実施するための立案と実地踏査の方法について計画を立てる
第8回 6/7	校外実習 月の毎日	4グループに分かれ、日曜に計画したコースで移動教室実地踏査の実習
第9回 6/7	校務分掌	教員の仕事と年間計画
第10回 6/14	課外活動	中学校と高等学校の責任義務の相違、 実態と指導法
第11回 6/21	特別活動のまとめ	グループごとに、実地踏査の結果を発表する
第12回 6/28	進路指導	進路指導の意義と方法
第13回 7/5	教育評価	測定と評価
第14回 7/12	まとめと最終課題	これまでの内容をまとめ、最終課題の作成に向けて考える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】・グループディスカッションサイトを利用した討論・次回の授業内容の資料調査

## 【テキスト（教科書）】

「解説教育六法（2021年版）」三省堂

## 【参考書】

取得予定免許教科の  
中学校学習指導要領解説  
高等学校学習指導要領解説

## 【成績評価の方法と基準】

出席、レポート、発表と討論、ネット上で出す課題討論への積極的参加度を、総合的に評価する。

なお、重みづけは下記の通り。

最終課題… 50%

授業内提出課題… 25%

校外実習… 10%

その他、発表技術や平常点など… 15%

## 【学生の意見等からの気づき】

実践例や実態について高評価と継続希望が多かったため、より精選・洗練して導入していく。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業で利用可能なPCを持参すること。

初回は登録作業を行うので必ず持ってくる。

## 【その他の重要事項】

Facebookを利用した課題討論を行う。

アカウント作成その他については初回オリエンテーションで行うので、初回から出席することが望ましい。

6月の日曜に野外実践を実施するので、都合が悪い日程や時期を控えてくること。

## 【Outline and objectives】

In this class, we focus on concrete practice in preparing for a teaching profession, including the position in the education system and laws and regulations in Japan, the actual qualities required of teachers, social demands, problems, and so on to consider.

SEE100LC

## 教育原理

川津 貴司

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第1回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

## 【到達目標】

教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉——「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など——が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。

また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。

この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

前週の内容に関する「振り返り」と、毎回のテーマにそくした「講義」、学生どうしグループを作った「話し合い」の三部構成で進めていきます。フィードバックの方法としては、毎回の「話し合い」の記録をとってもらい、それらを編集しプリント化して配布します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義
第2回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	なぜ教育は支配階級のためにしか存在しなかったのか？
第3回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	修道院・修道僧が「学校」「教師」のモデルになったのはなぜか？
第4回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「子ども」とは	中世に「子ども」はいなかった？
第5回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	絶対王政に対抗する市民社会で生まれた教育思想はどのようなものか？
第6回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	産業革命による社会変化は教育観・方法論にどのような影響をもたらしたか？
第7回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	帝国主義はなぜ・どのように近代公教育制度の成立を促したか？
第8回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	「児童の世紀」と「児童中心主義」が生まれてきた社会的背景はどのようなものか？
第9回	発達と学習	エリック・エリクソンを下敷きに
第10回	公教育・家庭・地域社会の関係	公教育と家庭・養育の関係性とその歴史の変遷
第11回	教科指導・生徒指導の諸理論	児童中心主義とカリキュラムの中心統合理論との融合
第12回	個性・能力・学力と教育思想	「その子の個性・能力」を見極め育てることの困難
第13回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	高度知識社会のける人間性の発達
第14回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり	教育の基本的諸概念に関するミニ・クイズを解いて理解度を確認する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】学生は、授業のなかで紹介した本やデータや映像などに自分でも触れてください。

## 【テキスト（教科書）】

指定なし。毎回プリントを配布します。

## 【参考書】

・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する——自己にたち返る学び』法政大学出版局・筒井美紀（2014）『大学選びより100倍大切なこと』ジャパンシニスト社

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）

→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a\_menu/01\_c.htm

## 【成績評価の方法と基準】

教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解したか、という観点から評価を行います。

毎回の話し合いへの参加（平常点）（30%）、中間レポート（30%）、学期末レポート（40%）を総合して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんのさまざまな意見を紹介していきたいと思っています。

## 【その他の重要事項】

この授業の内容・進め方については、受講する学生と相談のうえ、最終的に決定します。初回授業には必ず出席してください。

また、学生どうしの「話し合い」を取り入れる授業ですので、協力をお願いします。

## 【Outline and objectives】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts.

Active learning; group discussion about today's educational issues

SEE100LC

## 教育の制度・経営

辻本 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業内容の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行政の法制度やしくみを理解し考えること。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、これには危機管理や安全対策、地域との連携も含まれる。

## 【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必要な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式とワークショップ形式（問題解決）を基本とする。授業中にジグソー法やグループディスカッション&プレゼンなどを取り入れる。また、ほぼ毎回提出課題と OPPA（一枚ポートフォリオ評価法）で授業のふりかえりを行い、授業内容の理解を促し、受講者の考えを整理し、必要に応じて授業でフィードバックする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	授業のテーマと構成、進め方と評価、日本の学校改革の今（PISA 調査に基づく学力観の変容、GIGA スクール構想なども含む）
第2回	世界の教育改革	学校体系の国際比較、海外の学校制度改革、日本の学校制度改革（ドルトンプラン、イエナプランなど）
第3回	憲法・教育基本法	憲法の教育条項、教育基本法の新旧比較、教基法の1～3条（教育基本法の変容と時代背景）
第4回	教育行政のしくみ	文部科学省、教育委員会、地教行法と学校（都道府県や区市町村の教育委員会の意義や役割等）
第5回	学習指導要領と教科書制度	学習指導要領改訂、教科書制度、カリキュラム・マネジメント（学習指導要領の改訂の歴史や教科書検定の在り方など）
第6回	教育財政制度と無償化	無償制、国庫負担金と補助金、就学援助と教育扶助（子供の貧困や教育格差と財政や教育費についても含む）
第7回	学校組織の法としくみ	学校管理規則、校長とミドルリーダー、校務分掌（管理職制度、主幹、主任制度、必置主任と校務分掌も含む）
第8回	学級経営	学級の誕生と性格、学級編制基準、少人数学級・指導（学級経営の在り方と事例研究）
第9回	学校と教員の評価	学校評価、教員評価、PDCA（学校評価の仕組みと地域、保護者、生徒の評価の活用、開かれた学校づくり協議会）
第10回	教員の成長と同僚性	「学び続ける教師」、同僚としての教師、授業研究（学びの共同体の構築）
第11回	子どもの人権と学校	子どもの人権、学校の指導文化、校則（人権尊重推進の研究も含む）
第12回	学校の危機管理と安全対策	災害等の危機管理、安全対策、学校と保護者の関係づくり（リスクマネジメント）
第13回	「チームとしての学校」	チーム学校提案、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー（ケースワークの事例も含む）
第14回	地域や家庭に開かれた学校づくり	学校と地域の連携、コミュニティスクール、まとめと試験（シチズンシップ）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業で興味を持ったテーマやキーワードを、インターネットで検索したり、関連書籍・資料を読んで深めてほしい。なお、教職課程センターには、教育及び学校関係の情報が所蔵されているので、機会を見つけて訪問してほしい。

## 【テキスト（教科書）】

教員が必要に応じて指定する。

## 【参考書】

本図愛実・末富芳編著『新・教育の制度と経営【新訂版】』学事出版  
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

## 【成績評価の方法と基準】

教育の行政と制度についての基礎知識の理解だけでなく、自らの考えを知識やデータを根拠に議論ができ、又それらを裏付けて論述できるかを評価する。授業内のプレゼンや OPPA（一枚ポートフォリオ評価）等（40%程度）、定期試験（60%程度）によって評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

「本年度授業担当者変更によりフィードバックできません」

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン・タブレット・スマートフォン可

## 【その他の重要事項】

・授業の性質上、教職志望又教職に関心の高い人の履修を前提とする  
・講義形式とワークショップ形式を併用して授業を展開するので、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力は不可欠である。

## 【Outline and objectives】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用  
・ 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達

・ 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論  
・ 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方  
・ 主体的な学習活動を支える指導の基礎

★ 2021 年度は特別態勢を取るため、詳細な授業内容については、授業開始前に、学習支援システムの中の当該科目のお知らせを確認してください。★  
○ 教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。

○ 成績は、従来の定期試験を中心とする方法ではなく、授業中 5 回程度課すレポートの内容をもとに、授業への積極的な参加度で ± 30% の加点または減点を行って、算出します。

○ 伊藤隆一のメールアドレスは、momokawa@hosei.ac.jp です。  
○ 状況が変化し、授業の内容と成績算定方式を変更するときは、改めて、お知らせいたします。

【到達目標】

・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。  
・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

中学校、高等学校の教員として必要な教育心理学的知識について講義する。その内容は、概略、以下のようなものである。①知的能力と性格 ②心身の発達及び学習の過程 ③子どもへの支援の仕方 ④集団と人間関係。課題の提出を求める場合、提出期限終了後、正解を示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教育心理学の概要と授業ガイダンス
第 2 回	知的能力	知能の定義と構造
第 3 回	知的能力の測定	知能の測定、知能と学力との関係
第 4 回	性格とリーダーシップ	性格の定義・諸理論とリーダーシップ理論、リーダーの働き
第 5 回	行動	さまざまな行動の種類とその学習方法
第 6 回	効果的な学習方法	学習・記憶理論にもとづくさまざまな効果的な学習方法
第 7 回	子どもの心身の発達（1）	ピアジェ、エリクソンらの理論にもとづく子どもの心身の発達と、子どもへの支援の仕方。児童期まで
第 8 回	子どもの心身の発達（2）	ピアジェ、エリクソンらの理論にもとづく子どもの心身の発達と、子どもへの支援の仕方。青年期前期から
第 9 回	人間関係	家族、学校、地域における人間関係（縦関係や横関係）
第 10 回	集団	集団を構成する人間関係の構造とその影響力
第 11 回	状況の力	集団が個人に及ぼすさまざまな状況の力の働き
第 12 回	教授法	効果的な学習方法や教授法
第 13 回	教育評価	教育評価の方法とその影響
第 14 回	心身の障がいと特別支援教育	発達障がいを含む心身の障がいと特別支援教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】テキストの関連箇所を熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。課題を出すことがあるが、授業前に必ずやっておくこと。

【テキスト（教科書）】

「伊藤隆一・千田茂博・渡辺昭彦 『現代の心理学』 金子書房 2003 年」を使用する。

【参考書】

文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70%）、授業内レポートや授業への積極的参加（30%）で評価

【学生の意見等からの気づき】

今後とも、わかりやすく、具体的に、実践的な授業を行っていききたい。

【学生が準備すべき機器他】

心理学に関するビデオ・DVD を見せることがある。

【その他の重要事項】

精研式文章完成法テスト（SCT）を用いた子どものパーソナリティや生活環境に関する査定のコネクション活動をしている。子供のパーソナリティや心身の発達の過程に関する生きた事例を提供したい。

【Outline and objectives】

This course (Educational Psychology) introduces developmental psychology to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, functions of groups, learning theory and educational evaluation.

SEE200LC

## 教育課程論

田中 一樹

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国における教育システムと諸外国との比較および社会からの要求、問題点などから見た教育課程

## 【到達目標】

教育課程とは何か、教育課程を構築するにはどうすればいいのかについて、国内のみならず諸外国の事情を含め、歴史的変遷も含めて主に中学校・高等学校の理科・数学を中心に学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業の特性から、講義および課題演習・グループ発表を合わせて行う。課題については授業内で発表し、他の学生からの質疑と応答および教員からのコメントをもって課題作成者にフィードバックする。  
※一部対面授業があります。対面授業の日付は1週間以上前までに支援システムで通知します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回 9/20	ガイダンス	パソコン必須！ 授業に必要な事柄などの準備および作業
第 2 回 9/27	教育課程とは	定義的裏付け 意義と役割
第 3 回 10/4	学校教育	学校の成り立ち 比較教育 (欧州・米国を中心に)
第 4 回 10/11	教育課程の編成原理	あるべき姿と法的整備の拠り所
第 5 回 10/18	日本の学校教育のしくみ	変遷と法令との整合
第 6 回 10/25	カリキュラム (1)	学習指導要領との関連 学習指導案 演習課題
第 7 回 11/8	カリキュラム (2)	課題発表
第 8 回 11/15	カリキュラム (3)	教科領域とは何か
第 9 回 11/22	教科領域ではない指導と教育課程にない指導	教科領域ではない領域および課外活動の位置づけ
第 10 回 11/29	学校における教育課程	立案の実態と細案
第 11 回 12/6	評価と測定 (1)	評価とは何か 測定とは何か 評価の方法論
第 12 回 12/13	評価と測定 (2)	評価とは何か 測定とは何か 評価の方法論 についての現状
第 13 回 12/20	理数教育を取り巻く現状と新学習指導要領	新学習指導要領と理数系教育に対する社会の要請
第 14 回 1/17	まとめと最終課題	最終課題の提示と説明

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

目的とする教科の新しい小学校、中学校および高等学校の学習指導要領を文部科学省のサイトからDLし印刷しておくこと。  
（「情報」の場合は中学校「技術・家庭」を含む。）

## 【テキスト（教科書）】

教職入門で使用した「教育六法」（新版でなくてかまわない。一年次使用のもの。）

## 【参考書】

事前に用意するものはない。  
必要に応じて授業において適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

最終課題の提出を必須とする。（評価の 50%）  
中間評価として確認テストを実施する。（評価の 30%）  
ディベートの場としての参加度および出席を考慮する。（評価の 20%）

## 【学生の意見等からの気づき】

自分が受けてきた授業がどういう背景でなされていたのか、また教職に就くにあたりどのような資質や心構えおよび研修が必要なのかがよく理解できたという声が多かった。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業で利用可能なPCを持参すること。

## 【その他の重要事項】

授業の性質上、教職志望の強い人が履修していることを前提とする。  
したがって、授業中の飲食や過度の私語、居眠りは原則として単位を認定しない。  
SNS を利用するので初回は可能なPCまたは端末を必ず持参すること。

## 【Outline and objectives】

Education curriculum in Japan, comparing educational systems with those of other countries, as well as social demands and problems.



SEE200LC

## 数学科教育法（1）

田神 仁

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

○学生は、学習指導案を作成・検討し、模擬授業を通して学習指導要領の趣旨を理解する。また、講義や演習を通して中学校及び高等学校数学教師としての在り方を考えるとともに専門性の向上を図る。さらに、ICT機器活用やグループ学習など数学教育の先進的な指導法を学ぶ。

## 【到達目標】

○数学教師としての在り方について考えようとする。○学習指導要領に示された数学科における目標及び内容を理解できる。○学習指導案作成や模擬授業を通して、指導の工夫の仕方等を身に付ける。○問題演習を通して、数学教師としての専門教養の涵養を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

★新型コロナウイルス対応のため、zoomによるオンライン授業とする。★インターネットにつながるノートパソコン、Webカメラ、マイク、wifi等の通信環境が必要。特に、ブレイクアウトルーム間移動等の機能を使用するため、zoomは最新バージョンに更新しておくこと。（参考：2020.12.30 現在 Ver.5.4.7）★授業の進め方：毎回、演習の中でzoomを用いたグループ協議、調べ学習、ロールプレイング、ジグソー学習、ディベート、模擬授業等のアクティブ・ラーニングを行う。★課題の提出及び返却は、学習支援システムを用いて行う。★現職の数学教員2名を講師に招き、数学授業における指導の工夫やICT機器活用の実際等について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	○授業ガイダンス○中高数学科教師としての心構えや在り方について	○授業計画の提示○講義や演習を通して中高数学科教師としての在り方や心構えについて確認する。
2	○中高数学科における授業設計について○次期学習指導要領について	○主体的・対話的で深い学びを踏まえた中学校・高等学校数学科学習指導案を作成する。○次期学習指導要領に関する講義・演習を通して知見を得る。
3	○教育時事について（調べ学習）	○テーマについて調べて発表する活動を通して、教育時事についての理解を深める。
4	○これからの数学科の授業の在り方について	○Web授業を用いた演習を通して、学校における数学科の授業の在り方について研究協議する。
5	○教員の働き方改革について	○教員の働き方改革の現状と解決の視点について講義・演習を通して理解を図る。
6	○中学校高等学校模擬授業の実施及び研究協議（1）	○模擬授業及び研究協議を通して、板書や発問など、授業技術等について研究を深める。○授業者以外は全員、生徒役と評価者になる。
7	○中学校高等学校模擬授業の実施及び研究協議（2）	○模擬授業及び研究協議を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する授業について研究を深める。○授業者以外は全員、生徒役と評価者になる。

- |    |                           |   |
|----|---------------------------|---|
| 8  | ○中学校高等学校模擬授業の実施及び研究協議（3）  | ○習熟度別授業に関する講義や演習を通して、習熟度別授業の効果と課題等について理解する。             |
| 9  | ○中学校高等学校模擬授業の実施及び研究協議（4）  | ○習熟度別授業に関する講義や演習を通して、習熟度別授業の効果と課題等について理解する。             |
| 10 | ○数学科教師の専門性向上に向けて          | ○教員採用選考における数学科専門教養問題を教材にして専門性向上を図る。○定理を発見する体験。          |
| 11 | ○学校における数学教育の実際（1）         | ○現職数学教師による講義、演習を通して、数学教育における現状と課題を知る。                   |
| 12 | ○学校における数学教育の実際（2）（パソコン使用） | ○現職数学教師による関数ソフトを用いた講義、演習を通して、数学教育におけるICT機器活用の現状と留意点を知る。 |
| 13 | ○数学授業中の対応について             | ○授業中の生徒との関わりについて、演習を通して学ぶ。                              |
| 14 | 期末試験形式とまとめ                | ○関係資料持ち込み可の試験形式授業を通して、半年間の授業全体を振り返る。                    |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】返却された提出物を基にして授業の復習を行うこと。指示に従って、全員が単元指導計画や学習指導案を作成する。代表者による模擬授業を行うので、事前に学習指導案の構想を練っておく。事前に配布された教員採用選考問題（専門教養）を解き、生徒に説明する方法を検討しておく。

## 【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）、2018.3 発行「高等学校学習指導要領解説（数学編、理数編）」文部科学省、2017.3 発行「中学校学習指導要領解説（数学編）」文部科学省及び担当教員自作の印刷物等を配布。

## 【参考書】

（授業中に配布する資料）○旧東京都立教育研究所研究紀要「数学的な見方や考え方に関する研究」（平7）○東京都教職員研修センター 教科基礎調査研究数学会研究報告書「事象を数理的に考察し、表現・判断する力を育成するための系統的な指導の在り方」（平26）

## 【成績評価の方法と基準】

★評価基準は次の通り。★課題の提出状況・記述状況（50%）、授業への取り組み状況（30%）、最終回の期末試験形式授業の点数（20%）により評価する。公欠・忌引以外の欠席の場合、授業態度は最低評価となる。提出物は、後日提出すれば最低評価にはならない。

## 【学生の意見等からの気づき】

★前年度の授業改善アンケート結果によれば、zoomのブレイクアウトルームを用いた本授業の演習が大変好評であった。オンラインでも十分にアクティブ・ラーニングが実施できたので、今年度もzoomを用いて授業を行う。★現職教師による学校の指導事例報告やICT機器の実習も好評であった。そのため、本授業においても同様の工夫を行う。★教員志望者が多いので、教員採用試験に役立つ内容も扱う。

## 【学生が準備すべき機器他】

★毎回、学習支援システムを用いて資料配布・課題提出を行う。★インターネットにつながるノートパソコン、Webカメラ、マイク、wifi環境を用意してほしい。

**【その他の重要事項】**

★外部講師の都合等により、授業の順番や内容などシラバスを一部変更することがある。★実務経験のある教員を2人招聘して1回ずつ授業を行う。一人は現職公立高等学校数学科教師で、高等学校数学における指導の工夫について講義・模擬授業を行う。もう一人も現職公立高等学校数学科教師で、関数ソフトや図形ソフトなどのICT機器を活用した先進的な指導法について演習を行う。★必要があれば、メールや学習支援システム等を用いて質問してほしい。(通常)授業担当者は、月・水・金の9:30から17:30まで西館地下1階教職課程センター小金井相談室にいるので、教員採用試験など、授業以外の時間に質問等がある場合は相談室に来られたし。

**【Outline and objectives】**

Students prepare and examine the teaching guideline and understand the purpose of the teaching guideline through mock classes. In addition, through lectures and exercises, we will consider how to be a junior high school and high school mathematics teacher and improve our specialty. In addition, students will learn advanced teaching methods of mathematics education such as ICT equipment utilization and group learning.

SEE200LC

## 数学科教育法（2）

田神 仁

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、学習指導案を作成・検討し、模擬授業を通して学習指導要領の趣旨を理解する。また、講義や演習を通して中学校及び高等学校数学教師としての在り方を考えるとともに専門性の向上を図る。さらに、ICT機器活用やグループ学習など数学教育の先進的な指導法を学ぶ。

## 【到達目標】

○数学教師としての在り方について考えようとする。○学習指導要領に示された数学科における目標及び内容等を理解できる。○学習指導案作成や模擬授業を通して、指導の工夫の仕方等を身に付ける。○問題演習を通して、数学教師としての専門教養の涵養を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

★新型コロナウイルス対応のため、zoomによるオンライン授業とする。★インターネットにつながるノートパソコン、Webカメラ、マイク、wifi等の通信環境が必要。特に、ブレイクアウトルーム間移動等の機能を使用するため、zoomは最新バージョンに更新しておくこと。（参考：2020.12.30現在Ver.5.4.7）★授業の進め方：毎回、演習の中でzoomを用いたグループ協議、調べ学習、ロールプレイング、ジグソー学習、ディベート、模擬授業等のアクティブ・ラーニングを行う。★課題の提出及び返却は、学習支援システムを用いて行う。★現職の数学教員2名を講師に招き、数学授業における指導の工夫やICT機器活用の実際等について学ぶ。

★2021年度「数学科教育法(1)」も履修している学生が多いので、授業テーマは同じであっても扱う教材は、できる限り重複を避ける予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	○授業ガイダンス○中高数学科教師としての心構えや在り方について（教育実習に向けて）	○授業計画の提示○講義や演習を通して中高数学科教育実習生としての在り方や心構えについて確認する。
2	○中高数学科における授業設計について○次期学習指導要領について	○主体的・対話的で深い学びを踏まえた中学校・高等学校数学科学習指導案を作成する。○講義・演習を通して次期学習指導要領について復習する。
3	○教育時事等について（パワーポイント使用）	○テーマについて調べて発表する活動を通して、教育時事についての理解を深める。（数学科教育法(1)とは異なる内容）
4	○これからの数学科の授業の在り方について	○これからの数学科授業の在り方について研究協議する。（数学科教育法(1)とは異なる内容）
5	○教員の働き方改革について	○教員の働き方改革の現状と解決の視点について講義・演習を通して理解を図る。（数学科教育法(1)とは異なる内容）

- |    |                             |  |
|----|-----------------------------|--|
| 6  | ○中学校高等学校模擬授業の実施及び研究協議（1）    | ○模擬授業及び研究協議を通して、板書や発問など、授業技術等について研究を深める。○授業者以外は全員、生徒役と評価者になる。              |
| 7  | ○中学校高等学校模擬授業の実施及び研究協議（2）    | ○模擬授業及び研究協議を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する授業について研究を深める。○授業者以外は全員、生徒役と評価者になる。        |
| 8  | ○中学校高等学校模擬授業の実施及び研究協議（3）    | ○模擬授業及び研究協議を通して、授業における指導の工夫等について研究を深める。○授業者以外は全員、生徒役と評価者になる。               |
| 9  | ○中学校高等学校模擬授業の実施及び研究協議（4）    | ○模擬授業及び研究協議を通して、授業者としての生徒との関わり方等について研究を深める。○授業者以外は全員、生徒役と評価者になる。           |
| 10 | ○学校における数学科教育の実際（1）          | ○現職数学教師による講義、演習を通して、数学科教育における現状と課題を知る。（数学科教育法(1)とは異なる内容）                   |
| 11 | ○数学科教師の専門性向上に向けて            | ○教員採用選考における数学科専門教養問題を教材にして専門性向上を図る。（数学科教育法(1)とは異なる内容）                      |
| 12 | ○中高数学科教師としての生徒との関わりについて     | ○学校で起きそうな生徒との関わりについて、演習を通じて理解を図る。（数学科教育法(1)とは異なる内容）                        |
| 13 | ○学校における数学科教育の実際（2）（関数ソフト使用） | ○現職数学教師による関数ソフトを用いた講義、演習を通して、数学科教育におけるICT機器活用の現状と留意点を知る。（数学科教育法(1)とは異なる内容） |
| 14 | 期末試験形式とまとめ                  | ○関係資料持ち込み可の試験形式授業を通して、半年間の授業全体を振り返る。                                       |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】返却された提出物を基にして授業の復習を行うこと。指示に従って、全員が単元指導計画や学習指導案を作成する。代表者による模擬授業を行うので、事前に学習指導案の構想を練っておく。事前に配布された教員採用選考問題（専門教養）を解き、生徒に説明する方法を検討しておく。

## 【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）、2018.3発行「高等学校学習指導要領解説（数学編、理数編）」文部科学省、2017.3発行「中学校学習指導要領解説（数学編）」文部科学省及び担当教員自作の印刷物等を配布。

## 【参考書】

（授業中に配布する資料）○旧東京都立教育研究所研究紀要「数学的な見方や考え方に関する研究」（平7）○東京都教職員研修センター教科基礎調査研究数学会研究報告書「事象を数理的に考察し、表現・判断する力を育成するための系統的な指導の在り方」（平26）

**【成績評価の方法と基準】**

課題の提出状況・記述状況（50％）、毎時間の授業への取り組み姿勢（30％）、期末試験形式授業の点数（20％）により評価する。公欠・忌引き以外の欠席の場合、授業態度は最低評価となる。提出物は後日提出すれば最低評価にはならない。

**【学生の意見等からの気づき】**

前年度の授業改善アンケート結果によれば、毎回 zoom を用いてアクティブ・ラーニングを重視した学生参加型の演習を行ったことが極めて好評であった。また、現職教師による学校の指導の工夫の事例報告や ICT 機器の実習も好評であった。そのため、本授業においても同様の工夫を行う。また、教員志望者が多いので、教員採用試験に役立つ内容も扱う。

**【学生が準備すべき機器他】**

○毎回 zoom を使用するので、PC 及び通信環境、Web カメラ、マイクを準備すること。○事前に指示するが、ICT 機器活用に関する授業では、インターネットにつながる各自のノートパソコンに関するソフト（GRAPES、GEOGEBRA）を事前にインストールしておくこと。○その他授業に持参するものは、必要があれば前時までの授業で指示する。○毎回、課題の提出・返却には授業支援システムを利用する。

**【その他の重要事項】**

○外部講師の都合等により、授業の順番や内容などシラバスを一部変更することがある。○実務経験のある教員を2人招聘して各1回授業を行う。一人は現職公立高等学校数学科教師で、高等学校数学における指導の工夫について講義・模擬授業を行う。もう一人も現職公立高等学校数学科教師で、関数ソフトや図形ソフトなどの ICT 機器を活用した先進的な指導法について演習を行う。○授業担当者は、月・水・金の 9:30 から 17:30 まで西館地下 1 階教職課程センター小金井相談室にいるので、授業以外の時間に質問等がある場合は相談室に来られたし。

**【Outline and objectives】**

Students prepare and examine the teaching guideline and understand the purpose of the teaching guideline through mock classes. In addition, through lectures and exercises, we will consider how to be a junior high school and high school mathematics teacher and improve our specialty. In addition, students will learn advanced teaching methods of mathematics education such as ICT equipment utilization and group learning.

SEE200LC

## 数学科教育法（3）

三橋 秀生

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校数学・高等学校数学の内容、とくに整数や、確率と統計について、学習指導要領との関連を考えながら、一段高い立場から見直して教育内容の理解を深める。また、教材作成や統計ソフトなどを通じ、情報機器及び教材の授業設計への効果的な活用の仕方を学ぶ。

## 【到達目標】

数学教育について、とくに教科内容の面からの理解を深める。中学校・高等学校の教科書の内容を、発展的に捉え、俯瞰的な視野から数学教育を考える能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義や演習、実習等を組み合わせて進める。オンラインでの開講となった場合の、オンライン授業の方法や各回の授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	データの分類と処理	統計ソフトを用いてデータ処理方法を学ぶ。
2	基本統計量	基本統計量の計算方法、特徴や問題点を学ぶ。
3	2変量データと相関	統計ソフトを用いて相関関係について学ぶ。
4	離散確率分布	離散確率分布の定義や考え方を学ぶ。
5	同時分布	2変量の離散確率分布の定義や考え方を学ぶ。
6	連続確率分布	連続確率分布の定義や考え方を学ぶ。
7	推定・検定	統計的な推定や検定の考え方を学ぶ。
8	整数	整数の基本性質、整数の除法
9	ユークリッドの互除法	ユークリッドの互除法とその応用
10	素数	素数の基本性質、算術の基本定理
11	合同式	合同式の定義、合同式の演算
12	合同式の応用	合同式の整数問題への応用
13	記数法と有理数	n進法、有理数の定義と性質
14	教材作成	教材作成、情報機器及び教材の授業設計への効果的な活用

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義終了後復習を必ず行うこと。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

1. 学習指導要領
2. R.F.C. ウォルターズ, 算数からはじめよう! 数論 (岩波書店)
3. 東京大学教養学部統計学教室編, 統計学入門 (東京大学出版会)

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績 (70%)、課題レポート等の成績 (30%) で評価する。オンラインでの開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する場合がある。その場合の具体的な方法と基準は、各教員が学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業中に提示される問や課題演習を通じて理解を深めることが大切である。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業中に適宜指示します。

## 【その他の重要事項】

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろから確認をよくするようにしてください。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this course is to deepen the understanding of the mathematical contents of junior high school and high school, especially integers, probability and statistics, in relation to curriculum guidelines. In addition, students will learn how to effectively use information equipment and teaching materials for lesson design through creating teaching materials and using statistical software.

SEE200LC

## 数学科教育法（4）

間下 克哉

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校数学・高等学校数学の内容について、学習指導要領との関連を考えながら一段高い立場から見直して、理解を深める。  
また、版組ソフトウェア **LaTeX** および数学教育に利用されているソフトウェア **Geogebra** を用いて、教育実践に不可欠な数学文書作成・教材開発の実習も行う。

## 【到達目標】

数学教育について、とくに教科内容の面からの理解を深める。  
中学校・高等学校の教科書の内容を発展的に捉え、俯瞰的な視野から数学教育を考え実践する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義と実習をバランスよく配置して行う。受講学生による模擬授業も行う。  
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業全体のガイダンス	数学教員として何が重用であるか、そのために学ぶべきことについて考える 教育法を学ぶ上での問題演習の考え方についても述べる
2	数学ソフトウェアの利用 (1)	<b>LaTeX</b> による数学文書作成入門 <b>LaTeX</b> を用いた数式の記述の実習を行う
3	数学ソフトウェアの利用 (2)	<b>Geogebra</b> による数学の視覚化入門 <b>GeoGebra</b> を用いた作図の実習も行う
4	数学的文書作成の基礎・基本	数学的文書作成の目的を理解し、作成上の注意点を理解する
5	命題論理の理解を深める	否定・かつ・または・ならば
6	集合についての理解を深める	集合の定義と記法、部分集合、集合演算
7	述語論理	全称命題・存在命題・否定命題に習熟する
8	写像	写像の定義、単射、全射を理解して無限集合を定義する
9	中間総括	8回までの課題について、教材作成の観点から総括して講評を行う
10	<b>LaTeX</b> を用いた教材の作成実習	<b>LaTeX</b> を用いて数式を含む数ページの教材を実際に作成する
11	数学ソフトウェアの利用 (3)	<b>Geogebra</b> を用いた教材の可視化の方法を知り実習を行う
12	幾何学の様々な技法	ベクトル・座標幾何・複素数平面などについて概観する 幾何の考え方の観点からの内容も含める
13	数学ソフトウェアの活用	<b>Geogebra</b> を活用した教材開発実習
14	模擬授業	作成した教材の講評および模擬授業

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】  
本科目の内容は多岐にわたりますが、授業内で示される課題（レポート、演習問題）については、学習指導要領や中・高の教科書も参照しつつ、教科内容の理解を深めることを意図して解答してください。

## 【テキスト（教科書）】

和久井道久, 大学数学ベーシックトレーニング (日本評論社)

## 【参考書】

結城 浩, 数学文章作法 基礎編 (ちくま学芸文庫)  
佐藤文広, 数学ビギナーズマニュアル (日本評論社)  
「学習指導要領」文部科学省  
「中学校学習指導要領解説 (数学編)」文部科学省 (教育出版)、  
「高等学校学習指導要領解説 (数学編、理数編)」文部科学省 (実教出版)

## 【成績評価の方法と基準】

学期中に行う実習及び小テストの成果 (40%) と期末試験の得点 (60%) で評価します。

実習においては所定のスキルを身につけたか、試験においては、必要な数学的知識を身につけたかおよび思考過程を数学的に十分な論理性をもって表現できるかを重視して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

とくに高等学校以前の教育内容についての知識・理解に大きなばらつきがあるが、基礎学力不足は履修者が努力して補ってください。  
「教師は、彼等自身、生徒に期待されているあらゆる学習活動を行えなければならない」。この点に注意して、学びを深めて下さい。

## 【学生が準備すべき機器他】

大学から貸与されている PC を持参すること。

## 【その他の重要事項】

講義は受講者の数学の知識および授業態度をみながら行うので、必ずしもシラバスどおりに進むとは限らない。

## 【Outline and objectives】

Considering the relationship with ministry's curriculum guideline, we reexamine and deepen the understanding of junior high school and high school mathematics contents.

In addition, we will practice mathematical document preparation using LaTeX

and Geogebra indispensable for educational practice.

SEE200LC

## 理科教育法（1）

辻本 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理科の教職に就くために、「理科を学ぶ意義」を明確にし、必要な基礎的知識と技能を修得する

## 【到達目標】

- ・ワークショップを通じて、理科の基礎的な知識・技能や教師として必要な問題解決・情報活用・コミュニケーションなどの能力を修得することができる
- ・ミニ導入実験の実習で、教材開発の工夫や授業展開の方法を行うことによって、学校現場で使える授業力の向上を図ることができる
- ・理科教育の基礎的な学習理論や評価理論を理解できる
- ・OPPA (One Page Portfolio Assessment・一枚ポートフォリオ評価法) より「理科の学ぶ意義」を明確にすることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

- ・ワークショップ形式を中心に授業を展開する予定である
- ・授業デザインや学習指導案の作成を行い、作成者同士の相互評価を行い提出する
- ・ミニ導入実験、模擬授業をそれぞれ一人で行って一回実施する
- ・ICT 機器を活用する
- ・OPPA (一枚ポートフォリオ評価) で毎回自己評価を行う
- ・学習支援システムを通じて、毎回の提出課題と OPFA で授業のふりかえりを行い、受講者の考えを整理し、コメントを行い、必要に応じて授業でフィードバックする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	理科教師を目指す	ガイダンス 理科教育法とは何か
2	理科を学ぶ意義と教育課程	理科教育の目的 中学校及び高等学校の理科教育課程
3	理科の授業設計の方法	理科授業の実践方法及び指導法
4	中学校理科の学習内容と授業づくり1	中学校理科の物理分野
5	中学校理科の学習内容と授業づくり2	中学校理科の化学分野
6	中学校理科の学習内容と授業づくり3	中学校理科の生物分野
7	中学校理科の学習内容と授業づくり4	中学校理科の地学分野
8	高等学校理科の学習内容と授業づくり1	物理基礎
9	高等学校理科の学習内容と授業づくり2	化学基礎
10	高等学校理科の学習内容と授業づくり3	生物基礎
11	高等学校理科の学習内容と授業づくり4	地学基礎
12	理科授業を支える学習論1	発達の最近接領域論
13	理科授業を支える学習論2	学びの共同体
14	理科授業を支える学習論3	構成主義と OPFA 論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】・ミニ導入実験の構想を立て、実験教材の準備と練習を行い授業に備える  
・授業デザイン、学習指導案の作成を行う  
・中学校・高等学校の理科の教科書で予習をする

## 【テキスト（教科書）】

- ・中学校学習指導要領解説 理科編 文部科学省（最新版）
- ・高等学校学習指導要領解説 理科編・理数編 文部科学省（最新版）

## 【参考書】

- ・左巻健男編著「授業に活かす！ 理科教育法 中学・高等学校編」東京書籍
- ・堀哲夫著「一枚ポートフォリオ評価 OPFA」東洋館出版

## 【成績評価の方法と基準】

- ・学習指導案及び授業レポートの構想力の評価（20%）

- ・ミニ導入実験・模擬授業におけるプレゼンテーションの評価（20%）
- ・ワークショップ等におけるコミュニケーションの評価・平常点（20%）
- ・毎授業後に記入する OPP シートによる自己評価（20%）
- ・期末テスト（リフレクションテスト）（20%）

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度、高評価のワークショップ型授業や OPFA (一枚ポートフォリオ評価法) によるコメントの評価をバージョンアップして展開する

## 【学生が準備すべき機器他】

- ・パソコン、タブレット、スマホ可

## 【その他の重要事項】

- ・授業の性質上、教職志望の強い人や教職に関心の高い人の履修を前提とする。
- ・ワークショップを中心に授業を展開するので、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力は不可欠である。

## 【Outline and objectives】

This class clarifies the significance of science learning science, and provides basic knowledge and skills necessary to become a science teacher.

SEE200LC

## 理科教育法（2）

辻本 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理科の教職に就くために、「理科における資質・能力」を明確にし、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を促すための知識と技能を修得する。

## 【到達目標】

- ・ワークショップを通じて、理科の応用的な知識・技能や生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図る授業の在り方を修得することができる。
- ・一斉授業型の模擬授業の実習で、授業展開の方法や学習指導案の検討を行うことによって、学校現場で使える授業力の向上を図ることができる。
- ・理科教育の実践的な学習理論や評価理論を理解できる。
- ・OPPA（One Page Portfolio Assessment・一枚ポートフォリオ評価法）より「理科教師の資質・能力」を明確にすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

- ・ワークショップ形式を中心に授業を展開する予定である。
- ・授業デザインや学習指導案の作成を行い、作成者同士の相互評価を行い提出する。
- ・ミニ導入実験、模擬授業をそれぞれ一人一回実施する。
- ・ICT 機器を活用する。
- ・OPPA（一枚ポートフォリオ評価）で毎回自己評価を行う
- ・学習支援システムを通じて、毎回の提出課題と OPPA で授業のふりかえりを行い、受講者の考えを整理し、コメントを行い、必要に応じて授業でフィードバックする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	理科教育の現状と目的	理科教育の現状・課題・目的・改善 学習指導要領の解説
2	理科で育てたい資質・能力1	理科における問題解決と思考力・判断力・表現力の育成
3	理科で育てたい資質・能力2	理科における学びに向かう力・人間性等
4	理科における観察・実験1	観察・実験の理論と方法論 ICT 機器の活用と実際
5	理科における観察・実験2	観察・実験の意義 ICT アプリの活用の効果と課題
6	理科教材研究の方法1 物理・化学	身近な素材を使った物理・化学教材論
7	理科教材研究の方法2 生物・地学	身近な素材を使った生物・地学教材論
8	理科授業における ICT 機器の活用	ICT 機器の活用の効果・実践事例
9	模擬授業の計画と準備1	学習指導案の作成
10	模擬授業の計画と準備2	模擬授業の練習（主として一斉授業形態）
11	模擬授業1	中学校物理・化学領域
12	模擬授業2	中学校生物・地学領域
13	模擬授業3	高等学校物理・化学領域
14	模擬授業4	高等学校生物・地学領域

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】・ミニ導入実験や模擬授業の構想を立て、実験教材の準備と練習を行い授業に備える。

- ・授業デザイン、学習指導案の作成を行う。
- ・中学校・高等学校の理科の教科書で予習をする。

## 【テキスト（教科書）】

- ・中学校学習指導要領解説 理科編 文部科学省（最新版）
- ・高等学校学習指導要領解説 理科編・理数編 文部科学省（最新版）

## 【参考書】

- ・左巻健男編著「授業に活かす！ 理科教育法 中学・高等学校編」東京書籍
- ・堀哲夫著「一枚ポートフォリオ評価 OPPO」東洋館

## 【成績評価の方法と基準】

- ・学習指導案及び授業レポートの構想力の評価（20%）
- ・ミニ導入実験・模擬授業におけるプレゼンテーションの評価（20%）
- ・ワークショップ等におけるコミュニケーションの評価・平常点（20%）
- ・毎授業後に記入する OPP シートによる自己評価（20%）
- ・期末テスト（リフレクションテスト）（20%）

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度、高評価だったワークショップ型授業や OPPO（一枚ポートフォリオ評価法）のコメント評価をバージョンアップして展開する

## 【学生が準備すべき機器他】

- ・パソコン、タブレット、スマホ

## 【その他の重要事項】

- ・授業の性質上、教職志望の強い人や教職の関心の高い人の履修を前提とする。
- ・ワークショップを中心に授業を展開するので、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力は不可欠である。

## 【Outline and objectives】

This class clarifies the students' abilities we aim to develop through science education, and provides knowledge and skills in developing students' ability to think, to make decisions and to express their ideas.



SEE200LC

## 理科教育法（3）

辻本 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理科の教職に就くために、学習指導要領を理解しこれからの理科の教育に対応できる知識と技能を修得する。

## 【到達目標】

- ・ワークショップを通じて、理科の発展的な知識・技能や「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業デザインの方法を修得することができる。
- ・ミニ導入実験や模擬授業の実習で、学習指導要領の主旨を生かした授業展開の方法や学習指導案の検討を行うことによって、学校現場で使える授業力の向上を図ることができる。
- ・理科教育の現状と課題を踏まえ、学習指導要領の目標及び内容、指導上の留意点や指導方法、評価方法などを理解できる。
- ・OPPA（One Page Portfolio Assessment・一枚ポートフォリオ評価法）より「これからの理科教育」について明確にすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

- ・ワークショップ形式を中心に授業を展開する予定である。
- ・授業デザインや学習指導案の作成を行い、作成者同士の相互評価を行い提出する。
- ・ミニ導入実験、模擬授業をそれぞれ一人で行って実施する。
- ・ICT 機器を活用する。
- ・OPPA（一枚ポートフォリオ評価）で毎回自己評価を行う
- ・学習支援システムを通じて、毎回の提出課題と OPPA で授業のふりかえりを行い、受講者の考えを整理し、コメントを行い、必要に応じて授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	理科教育の現状と各種学力調査の結果と見通し	国際学力調査（PISA・TIMSS）における日本の理科の現状
2	学習指導要領の変遷とこれからの理科の教育課程	学習指導要領の分析と未来の理科教育を語る
3	理科教育の目的・目標（理科を学ぶ意義と必然性）	理科が社会と向き合う授業の構築
4	学習科学の理論と方法による教材研究の活用	学習科学に基づく実践事例の分析
5	主体的・対話的で深い学びの実践事例と授業分析1	物理分野の授業研究と評価
6	主体的・対話的で深い学びの実践事例と授業分析2	化学分野の授業研究と評価
7	主体的・対話的で深い学びの実践事例と授業分析3	生物分野の授業研究と評価
8	主体的・対話的で深い学びの実践事例と授業分析4	地学分野の授業研究と評価
9	中学校理科におけるこれからの評価	目標に準拠する評価 観点別評価を総括した評定 自己評価
10	高等学校理科におけるこれからの評価	オーセンティックアセスメント パフォーマンス評価・ポートフォリオ評価
11	理科と他教科との連携	教科横断型学習 カリキュラムマネジメント
12	理科と日常生活や社会との連携	価値観が伴う理科が社会と向き合う授業の在り方
13	理科と総合的な学習との連携	理科と SDGs（国連が定めた持続可能な開発目標）の関連
14	理科におけるキャリア教育	理科と関わる職業教育

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】・科学小話の構想を立て、実験教材の準備と練習を行い授業に備える。

・授業デザイン、学習指導案の作成を行う。

・中学校・高等学校の理科の教科書で予習をする。

## 【テキスト（教科書）】

- ・中学校学習指導要領解説 理科編 文部科学省（最新版）
- ・高等学校学習指導要領解説 理科編・理数編 文部科学省（最新版）

## 【参考書】

- ・左巻健男編著「授業に活かす！ 理科教育法 中学・高等学校編」東京書籍
- ・堀哲夫著「一枚ポートフォリオ評価 OPPIA」東洋館出版

## 【成績評価の方法と基準】

- ・学習指導案及び授業レポートの構想力の評価（20%）
- ・科学小話・模擬授業におけるプレゼンテーションの評価（20%）
- ・ワークショップ等におけるコミュニケーションの評価・平常点（20%）
- ・毎授業後に記入する OPP シートによる自己評価（20%）
- ・期末テスト（リフレクションテスト）（20%）

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度、高評価だったジグソー法などのワークショップ型授業や OPPIA のコメント評価をバージョンアップして展開する

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマホ可

## 【その他の重要事項】

- ・授業の性質上、教職志望の強い人や教職の関心の高い人の履修を前提とする。
- ・ワークショップを中心に授業を展開するので、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力は不可欠である。
- ・理科教育法ⅢとⅣはなるべく連続履修を希望するが、単位の関係など事情がある場合は要相談。

## 【Outline and objectives】

This class provides understanding of the teachers' guidelines, knowledge and skills necessary for modern science education.

SEE200LC

## 理科教育法（4）

辻本 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理科の教職に就くために、実際の授業場を想定した実践的な知識と技能を修得する。

## 【到達目標】

・ワークショップを通じて、理科の総合的な知識・技能や実践的なカリキュラム・マネジメントの能力を修得することができる。  
 ・問題解決型の模擬授業の実習で、授業展開の方法や指導案の検討を行うことによって、学校現場で使える授業力の向上を図ることができる。  
 ・理科教育の現状と課題を踏まえ、実践的な指導と評価のあり方について理解することができる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

・ワークショップ形式を中心に授業を展開する予定である。  
 ・授業デザインや学習指導案の作成を行い、作成者同士の相互評価を行い提出する。  
 ・科学小話、模擬授業をそれぞれ一人で一回実施する。  
 ・ICT 機器を活用する。  
 ・OPPA（一枚ポートフォリオ評価）で毎回自己評価を行う  
 ・学習支援システムを通じて、毎回の提出課題と OPPA で授業のふりかえりを行い、受講者の考えを整理し、コメントを行い、必要に応じて授業でフィードバックする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業計画と授業の構成	パフォーマンス課題と逆向き設計論 ジグソー学習法
2	教科書の役割と位置付け	教科書の位置づけ、内容、扱い方の分析
3	授業と教材	教材の選択・配列、観察・実験の位置づけ、考察の方法
4	理科室の運営	理科室の心構えと運営 授業における安全指導 事故の具体例
5	授業の展開の方法	発問・課題・説明・討論・板書・ノート の取り方・ワークシートの作り方
6	授業における ICT 機器の具体的な活用方法	ICT 機器の活用事例と授業づくり
7	学習指導案の具体的な書き方 1 中学校	模擬授業に向けての学習指導案作成 1
8	学習指導案の具体的な書き方 1 高等学校	模擬授業に向けての学習指導案作成 2
9	模擬授業 1 物理分野	ワークショップ型模擬授業 1
10	模擬授業 2 化学分野	ワークショップ型模擬授業 2
11	模擬授業 3 生物分野	ワークショップ型模擬授業 3
12	模擬授業 4 地学分野	ワークショップ型模擬授業 4
13	理科における実践的授業研究の動向 1	素朴概念と構成主義学習論の授業研究
14	理科における実践的授業研究の動向 2	オーセンティックアセスメントと授業研究

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】・科学小話や模擬授業の構想を立て、実験教材の準備と練習を行い授業に備える。

・授業デザイン、学習指導案の作成を行う。  
 ・中学校・高等学校の理科の教科書で予習をする。

## 【テキスト（教科書）】

・中学校学習指導要領解説 理科編 文部科学省（最新版）  
 ・高等学校学習指導要領解説 理科編・理数編 文部科学省（最新版）

## 【参考書】

・左巻健男編著「授業に活かす！ 理科教育法 中学・高等学校編」東京書籍  
 ・堀哲夫著「一枚ポートフォリオ評価 OPPIA」東洋館出版

## 【成績評価の方法と基準】

・学習指導案及び授業レポートの構想力の評価（20%）  
 ・科学小話・模擬授業におけるプレゼンテーションの評価（20%）  
 ・ワークショップ等におけるコミュニケーションの評価・平常点（20%）  
 ・毎授業後に記入する OPP シートによる自己評価（20%）

・期末テスト（リフレクションテスト）（20%）

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度、高評価だったジグソー法などのワークショップ型授業や OPPIA のコメント評価をバージョンアップして展開する

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマホ可

## 【その他の重要事項】

・授業の性質上、教職志望の強い人や教職に関心の高い人の履修を前提とする。  
 ・ワークショップを中心に授業を展開するので、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力は不可欠である。  
 ・理科教育法ⅢとⅣはなるべく連続履修を希望するが、単位の関係など事情がある場合は要相談。

## 【Outline and objectives】

This class provides practical knowledge and skills useful in applying to actual classroom settings.

SEE200LC

## 道徳教育指導論

五十嵐 由和

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か?」「道徳教育は可能なか?」「道徳教育はいかになされるべきか?」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

## 【到達目標】

道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解できる。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解できる。

- ①道徳教育の現状と課題について問題意識を持つ、説明できる。
- ②道徳の本質を説明できる。
- ③道徳教育の歴史について理解できる。
- ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主要内容を理解できる。
- ⑤自ら「道徳」の授業を組み立て学習指導案を作成することができる。
- ⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点をも身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

主体的、対話的で深い学びのある授業になるように、学習課題を明確にし、問題意識を持ち、ペアやグループ・全体での話し合い活動、振り返り活動を基本に授業を進める。授業の振り返りでは、学びを深めるためにコメントシートを書き、提出する。演習として、学習指導案の作成・模擬授業を行う。教材は、学習指導要領解説を基本に、スライド・プリント資料をもとに進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	道徳教育を学ぶ意義について	14回の授業の概要についてのガイダンス、道徳の本質と学校における道徳教育の意義、人格形成に果たす役割、生きる力と道徳教育本講義での学び方及び学習の見通しと課題
第2回	道徳教育の歴史	道徳教育の歴史、戦前、戦後の道徳教育の変遷から、現状と課題と道徳科に求められている課題の考察
第3回	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	道徳教育・道徳科に求められている課題の考察、道徳科の目標と評価
第4回	心の教育について—学習指導要領における「心の教育」	心の教育と道徳教育の構造と役割を、道徳教育と道徳科の関係の考察、実践例から学ぶ
第5回	いのちの教育について—学習指導要領における「いのちの教育」	道徳教育の目標及び内容項目といのちの教育の実践

第6回	人権教育について—学習指導要領における「人権教育」	道徳教育における人権教育をどう進めるか、道徳教育の全体計画と道徳科の年間指導計画
第7回	道徳性の発達理論 道徳科の目標	道徳性の発達理論の理解（ピアジェ、コールバーグ理論） 学習指導要領における道徳性
第8回	師範授業と道徳授業論	師範授業と学習指導要領解説に示された授業の進め方、授業理論 道徳教育についての提示されたレポートを提出する。提出されたレポートは、評価・コメントして返却する。
第9回	道徳科の学習指導案の書き方及び発問の仕方 モラルジレンマ型教材	学習指導案の内容と作成手順、資料吟味と発問の仕方 検定教科書の使用について
第10回	学習指導案とシティズンシップ教育	資料吟味をもとにした学習指導案の作成・演習、作成した指導案による模擬授業の協議 シティズンシップ教育について
第11回	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	各グループによる模擬授業の発表、実践例の検証
第12回	学習指導案の作成	資料吟味と学習指導案の作成、発問構成と生徒の反応
第13回	学習指導案の完成	学習指導案の完成とプレゼンと相互評価 提出された学習指導案は、評価・コメントして返却する。
第14回	学級担任と道徳教育、全体の振り返りとまとめ	学級担任による道徳教育の進め方及び14回のテーマ・内容の振り返り、道徳教育、道徳科の授業の意義や内容のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

各時間のテーマ・内容を確認し、中学校学習指導要領解説編・特別の教科 道徳編を活用して、準備学習・予習を行うこと。復習・宿題については、授業の最後に指示する。特に、復習として毎時間のノートを整理し学びの内容を確認しておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳 文部科学省教育出版 156円＋税

## 【参考書】

中学校学習指導要領解説 総則編  
中学生の道徳 明日への扉 文部科学省検定済教科書 学研  
授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業におけるコメントシート（30%）、学習指導案（20%）、14回目に行う達成度テスト（50%）の点数を合わせて総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

具体的な道徳授業の進め方、学習指導案の作成、現役教師の授業動画の視聴、実践事例により、道徳教育、道徳授業を実践的に理解することができたとの評価があり、本年度の講座では理論とともに、実践事例をもとにした講義や学習指導案の作成、授業動画、模擬授業などの演習を進め、教育実習、教育現場の実践に役立つように授業を進める。

## 【学生が準備すべき機器他】

ノート、配布資料をまとめるファイル等、2B以上の濃い鉛筆を

**【その他の重要事項】**

道徳教育の内容は、生涯かけて追い求めていくもので、人間として、自らの生き方の課題として道徳教育を考えていくことが大切です。生徒とともに共に人間としての生き方を考える教師として誠意と自覚をもって積極的に受講してください。

**【Outline and objectives】**

This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

SEE200LC

## 特別活動論

児玉 洋介

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、討議、グループワーク等を通して高める。

## 【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々な行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

対面授業を基本とするが、動画配信を併用するなど、状況に対応した形態とする。毎回の授業での課題コメント（WEB 提出）を次回の授業で活用しながら、授業への主体的なかかわりと学生同士の学び合いが充実するようとりくみたい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講座の授業計画の概要、授業のねらい、進め方、評価等についての説明等。
第 2 回	教育課程の中の特別活動	一日の学校生活の流れ、一年間の学校行事などを見ながら特別活動の位置を考える。
第 3 回	特別活動の歴史	日本の学校における教科外教育の歴史。学級、学校行事、儀式等の成立と役割。
第 4 回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領の変遷と特別活動の位置付けの変化。
第 5 回	特別活動の目標と展開	特別活動は何を育てるのか。生徒の実態に即した創造的とりくみを黎明期の新制中学校実践から学ぶ。
第 6 回	学級・ホームルーム活動	ホームルームの活動とその指導。中学校の学級組織とその活動。高校ホームルーム活動の歴史と現状。
第 7 回	話し合い活動とその指導	生徒との対話、生徒同士が本音で語り合うクラス討論、意見交換の場の設定など、コミュニケーション力の育成。
第 8 回	特別活動の評価と改善	生徒の生活実態や社会環境等の背景とかわった学級・学年のとりくみ指導。「学級だより」「班ノート」などのコミュニケーションツールの活用。
第 9 回	児童会・生徒会活動	生徒の自治活動と担任・担当教員・学校の指導の在り方。
第 10 回	学校行事	学校文化の創造と特別活動を考える。文化的活動の意義、学校文化論を、「南中ソーラン」の歴史に学ぶ。
第 11 回	部活動	教育課程外の活動と、教育課程との関連。部活動・クラブ活動の歴史的位。部活動の今日的課題と将来展望。
第 12 回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シテイズンシップ教育）	学びを育てる特別活動。共同の学びを通じた生徒たちの問題意識の深化。
第 13 回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	地域の教育力、地域再生の力を活用した地域産業や職業への学び。国際理解教育や高校生の国際交流。
第 14 回	まとめ：特別活動の課題と可能性	「集団」活動を通した「個」の発達成長という特別活動の持つ固有の教育的意義をとらえ、学びの発展の可能性を探る。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業にかかわる課題コメント（300 字程度）の作成（3 日以内に学習支援システムから提出）、2 回の課題レポート作成に関して、必要な調査・研究を進めることをふくめ、本授業の準備学習・復習等の時間は各 4 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に定めない。学習にかかわる資料等は授業の中で教員が適宜準備し、また参考文献等を指示する。

## 【参考書】

『中学校学習指導要領/特別活動編』、『高等学校学習指導要領/特別活動編』（最新版 文部科学省）

※ PDF でダウンロード可。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への主体的な参加状況（学習支援システムを活用し、毎回課題コメントを提出）に対する評価（50%）と、授業のテーマに即した 2 回の課題レポートに対する評価（50%）を総合的に見る。

定期テストは行わない。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生自身が自らの学校生活を通じて抱いてきた問題関心にフィットするテーマで、議論・考察が深まるように心がけている。多人数の授業だが、学生同士の学び合いが充実するよう、授業内容への主体的な関わりや意見の交流の機会を大切にしているが、このことへの共感と評価が高い。

## 【学生が準備すべき機器他】

講義は PowerPoint やビデオ教材などを活用して進める。各回授業ごとの課題コメント（300 字程度）を入力するために、スマホや PC などの端末が必要（提出は講義後 3 日以内）。また、課題レポート（2 回）は word などの電子データの形で作成し、学習支援システムを介して提出する。

## 【Outline and objectives】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

SEE200LC

## 教育相談

伊藤 ひろみ

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・ 学校における教育相談の意義と理論
  - ・ 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
  - ・ 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携などについて、実際の事例も交えて講義する。
- ★ 2021年度は特別体制を取るため、詳細な授業内容については、授業開始前に、学習支援システムのお知らせを確認してください。★
- 教科書は必ず必要です。教育心理学で使用したのと同じ「伊藤・渡辺・千田（著）『現代の心理学』金子書房 2500円＋税」です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。
  - 成績は、従来の定期試験を中心とする方法ではなく、授業中3～7回でいど課レポートの内容をもとに、授業への積極的な参加度で±30%の加点または減点を行って、算出します。
  - 伊藤ひろみのメールアドレスは、[hiromi.ito.rk@hosei.ac.jp](mailto:hiromi.ito.rk@hosei.ac.jp)です。
  - 状況が変化し、授業の内容と試験方式を変更するときには、改めて、お知らせいたします。

## 【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

学校現場で教師が行う教育相談を念頭に小学生から20代までのこころの問題を中心に、その内容と分類、早期発見法、解決法、予防的教育などについて講義する。近年、さまざまなこころの問題が学校教育現場で取り上げられており、教師は教育相談の理論と方法を身に付けることが必要であることは周知のことである。児童期から青年期の「こころの問題」に対して、教師が周囲の関係者と連携して対処していくことについて、事例を含めて講義する。また、授業においてロールプレイを通して、カウンセリングの実践を取り入れたい。また、課題を数回提出してもらうことになるが、その場合は内容についてその後の授業で解説しコメントを述べる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	教育相談とは何か	多様な生徒のいる学校現場で教師が行う相談の意味について
2	こころの問題の分類	こころの障がいの内容と発見法、治療法の概略
3	こころの問題の多様性(1)	精神病レベル、神経症レベルのこころの障がいの概略
4	こころの問題の多様性(2)	外因性障がい、知的障がい、人格障がいの概略
5	発達障がい	自閉症、自閉スペクトラム、広汎性発達障がいなどの概要と教育的支援
6	生徒の神経症	子どもの神経症レベルの障がいの概略
7	自分と環境に関する悩み	環境とこころの問題との関連性、子どもの貧困、社会的障がいの概略
8	子どもの社会的障がいの概略(1)	不登校、ひきこもり、性的逸脱
9	子どもの社会的障がいの概略(2)	いじめの問題の実際とその対応
10	カウンセリング・マインド(1)	カウンセリングに関する基礎的な理論と方法。必要な姿勢と技能
11	カウンセリング・マインド(2)	非言語コミュニケーションの役割と重要性
12	カウンセリングの役割と学校での支援	問題の見立て、査定、予測と予防的カウンセリングの役割。チームによる支援と支援各者の役割
13	カウンセリングの実際(1)	ロールプレイを通して自分の応答の特徴を知る
14	カウンセリングの実際(2)	子どもの力を引き出す開発的カウンセリングの役割

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】テキストの関連箇所を熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。課題を出すことがあるが、授業前に必ずやっておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

「伊藤隆一・千田茂博・渡辺昭彦『現代の心理学』金子書房 2003年」を使用する。

## 【参考書】

文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）。その他適宜プリントを配布し、授業内でもさらに書籍を紹介する。心理学・教育学関連のビデオ・DVDを見ることがある。

## 【成績評価の方法と基準】

定期試験（70%）、授業内レポートや授業への積極的な参加（30%）で評価。評価基準：科目の課題・内容について認識・理解しているか、自主的に学習を深めたか、各自の考えを的確に表現できているか、などを基準とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

今後とも、わかりやすく、具体的に、実践的な授業を行っていきたい。

## 【その他の重要事項】

学校領域、医療領域で相談・カウンセリング経験のある教員が、相談業務の実際を例あげて講義する。また、精研式文章完成法テスト（SCT）を用いた子どものパーソナリティや生活環境に関する査定コンサルテーション活動をしている。子供のパーソナリティや心身の発達の過程に関する生きた事例を提供したい。「カウンセリングの実際（ロールプレイ）」に参加するには、事前の授業の知識が必須である。

## 【Outline and objectives】

This course (School counseling/Educational counseling) introduces the theory and method on school counseling as a teacher to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about actual issues related to school counseling, mental disorder, and so called "counseling mind".

SEE200LC

## 生徒・進路指導論

児玉 洋介

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

## 【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

生徒指導・進路指導いずれも、生徒集団全体に対する指導と、個々の生徒に対する指導、それぞれについての指導の在り方、方針や方法を理解できるようにする。また、理論講義を踏まえ、あらためて学生自らが体験してきた学校生活での生徒指導・進路指導を振り返りながら、そこに現時点からの検証を加える。生徒指導論では「いじめ」をめぐる諸問題、進路指導論では「受験と進路」「学校と職場の接続」をめぐる諸問題に焦点をあてて、これを深く掘り下げる。

学生同士の学び合いが充実するよう、授業内容へのコメントを活用した意見交流を大切に、フィードバックしながら進めていきたい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要とガイダンス	授業計画の概要、ねらい、すすめ方、評価等についての説明と、「課題レポート①」について
第2回	生徒指導の意義と役割	「生活」指導と「生徒」指導。教育活動としての「指導」の広がりや教育課程上の位置づけ。
第3回	生徒指導の方法	生徒指導の方法、教育相談、法的制度と学校外の児童自立支援施設等。『生徒指導提要』（文部科学省）
第4回	生徒指導における集団指導	学級と生活指導。学習集団と生活集団。生活指導の中心舞台（学級・HR）と担任教師
第5回	集団指導の組織的な推進体制	学校における組織的推進体制と、生徒の自治的自律的とりくみ。今日の生徒指導の焦点的課題、「規範意識」「校則指導」「体罰」等をめぐって
第6回	生徒指導における個別指導（暴力行為、非行、いじめ加害等への対処）	学校における事故管理としての処分と、教育活動としての問題行動指導のあり方。「規範意識の醸成」「ゼロ・トランス」
第7回	生徒指導における個別指導（いじめ問題等への教育課題としての対応）	「いじめ防止対策推進法」と今日の「いじめ問題」。
第8回	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	生徒指導をめぐる管理的アプローチと教育的アプローチ。不登校生徒や、発達障害等の課題を抱えた生徒とのかかわりと支援。
第9回	進路指導の意義と役割（進路指導の教育課程上の位置づけ）	「生徒の進路」が「指導」の対象となることの意味を考える。進路指導の基礎理論。
第10回	進路指導の歴史と方法	中等教育の歴史的役割の変化と、その現段階。学校と社会の接続。普通教育と職業教育。
第11回	キャリア教育の意義と役割	「進路指導」と「キャリア教育」それぞれの概念、基本的考え方。今日の雇用情勢と日本の若者の社会参加をめぐる課題。
第12回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	集団的進路指導、ガイダンスの役割と方法。中学生にとっての「学ぶこと」「働くこと」を考える授業。
第13回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	進路指導・キャリア教育における個別指導。キャリアカウンセリングの役割と方法。

第14回 進路指導・キャリア教育 学校での「学び」と「ポートフォリオ」におけるポートフォリオの活用 進路指導論のまとめもふくめて

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業にかかわる課題コメント（300字程度）の作成（3日以内に学習支援システムから提出）、2回予定している課題レポート作成に必要な調査・研究をふくめ、本授業の準備学習・復習等の時間は各回4時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に定めない。学習にかかわる資料等は授業の中で教員が適宜準備し、また参考文献等を指示する。

## 【参考書】

『生徒指導提要』（文部科学省）

『中学校キャリア教育の手引き』（文部科学省）

## 【成績評価の方法と基準】

授業への主体的な参加状況（学習支援システムを活用し、毎回課題コメントを提出）に対する評価（50%）と、授業のテーマに即した2回の課題レポートに対する評価（50%）を総合的に見る。

定期試験は行わない。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生自身が自らの学校生活を通じて抱えてきた問題関心にフィットするテーマで、議論・考察が深まるように心がけている。多人数の授業だが、学生同士の学び合いが充実するよう、授業内容への主体的な関わりや意見の交流の機会を大切にしているが、このことへの共感と評価が高い。

## 【学生が準備すべき機器他】

講義はPowerPointやビデオ教材などを活用して進める。各回授業ごとの課題コメント（300字程度）を入力するために、スマホやPCなどの端末が必要（提出は講義後3日以内）。また、課題レポート（2回）はwordなどの電子データの形で作成し、学習支援システムを介して提出する。

## 【Outline and objectives】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

SEE400LC

## 教育実習（高）

金沢 誠

開講時期：年間授業/Yearly

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の現場たる中学校・高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立することを目指す。

## 【到達目標】

学習指導、学級経営などの活動の体験を積み重ね、教育の現場で必要となる能力を、実践を通じて獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には、

- ①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）
- ②中学校・高等学校での実習
- ③実習後の反省と総括（プレゼンテーション等）

を行う。

特にフィードバックが必要な事項があれば、個別にメール等で行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	第3年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義（180分）教育実習指導教員からの説明とともに、生活指導（教科指導・生活指導）に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等
実習中②	教育実習	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習中②	教育実習	同上
実習中②	教育実習	同上
実習中②	教育実習	同上
実習中②	教育実習	同上
実習中②	教育実習	同上
実習中②	教育実習	同上
実習中②	教育実習	同上
実習中②	教育実習	同上
実習中②	教育実習	同上
実習中②	教育実習	同上

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うまでに、学習指導要領および教科書を

- (1) 用語の使い方を正確に理解すること
- (2) 公式や定理の論理的体系性を十分に理解すること
- (3) 公式の導出や定理の証明を簡潔かつ明瞭に解説することを目標に熟読しておくこと。

実習期間中は担当する授業内容を十分に検討して指導案を作成すること。

## 【テキスト（教科書）】

各プロセスで指示

## 【参考書】

必要に応じて指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

実習校の採点を主とし、実習日誌の評価、実習後にまとめる実習レポートの採点及び事後指導の結果を加味して、総合的に評価する。なお、評価は、この両者を総合評価するが、それぞれに一定の基準を満たさなければ、教育実習の単位は修得できない。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート非実施

## 【Outline and objectives】

The aim is to develop the basic competence of a teacher of the future, and to establish its responsibilities and awareness.



SEE400LC

## 教育実習（中・高）

金沢 誠

開講時期：年間授業/Yearly

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の現場たる中学校・高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立することを目指す。

## 【到達目標】

学習指導、学級経営などの活動の体験を積み重ね、教育の現場で必要となる能力を、実践を通じて獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には、

- ①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）
- ②中学校・高等学校での実習
- ③実習後の反省と総括（プレゼンテーション等）

を行う。

特にフィードバックが必要な事項があれば、個別にメール等で行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	第3年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義（180分）教育実習指導教員からの説明とともに、生活指導（教科指導・生活指導）に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等
実習中②	教育実習	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習中②	教育実習	同上
実習中②	教育実習	同上
実習中②	教育実習	同上
実習中②	教育実習	同上
実習中②	教育実習	同上
実習中②	教育実習	同上
実習中②	教育実習	同上
実習中②	教育実習	同上
実習中②	教育実習	同上
実習後	事後指導	事後指導

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うまでに、学習指導要領および教科書を

- (1) 用語の使い方を正確に理解すること
- (2) 公式や定理の配置の論理的体系性を十分に理解すること
- (3) 公式の導出や定理の証明を簡潔かつ明瞭に解説することを目標に熟読しておくこと。

実習期間中は担当する授業内容を十分に検討して指導案を作成すること。

## 【テキスト（教科書）】

各プロセスで指示

## 【参考書】

必要に応じて指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

実習校の採点を主とし、実習日誌の評価、実習後にまとめる実習レポートの採点及び事後指導の結果を加味して、総合的に評価する。なお、評価は、この両者を総合評価するが、それぞれに一定の基準を満たさなければ、教育実習の単位は修得できない。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート非実施

## 【Outline and objectives】

The aim is to develop the basic competence of a teacher of the future, and to establish its responsibilities and awareness.

SEE400LC

## 教育実習（高）

辻本 昭彦

開講時期：年間授業/Yearly

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の現場たる高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立する。

## 【到達目標】

「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には、①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）、②中学校・高等学校での実習、③実習後の反省と総括（プレゼンテーション等）を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	第3年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義（180分）教育実習指導教員からの説明とともに、生活指導（教科指導・生活指導）に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等
実習中②	教育実習	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
実習中③	教育実習	・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。） ・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
実習中④	教育実習	・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。） ・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
実習中⑤	教育実習	・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。） ・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
実習中⑥	教育実習	・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。） ・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）

実習中⑦ 教育実習

- ・現職の先生の授業を見学
- ・学習指導案の作成
- ・授業実習
- ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
- ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑧ 教育実習

- ・現職の先生の授業を見学
- ・学習指導案の作成
- ・授業実習
- ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
- ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑨ 教育実習

- ・現職の先生の授業を見学
- ・学習指導案の作成
- ・授業実習
- ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
- ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑩ 教育実習

- ・現職の先生の授業を見学
- ・学習指導案の作成
- ・授業実習
- ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
- ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑪ 教育実習

- ・現職の先生の授業を見学
- ・学習指導案の作成
- ・授業実習
- ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
- ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑫ 教育実習

- ・現職の先生の授業を見学
- ・学習指導案の作成
- ・授業実習
- ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
- ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当する授業の学習指導案の作成

## 【テキスト（教科書）】

各プロセスで指示

## 【参考書】

必要に応じて指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

実習校の採点（60%）を主とし、実習日誌の評価（20%）、実習後にまとめた実習レポート（10%）の採点及び事後指導のレポート課題（10%）結果を加味して、総合的に出される。なお、評価は、この両者を総合評価するが、それぞれに一定の基準を満たさなければ、教育実習の単位は修得できない。

## 【学生の意見等からの気づき】

特に無し

## 【学生が準備すべき機器他】

特に無い

## 【その他の重要事項】

授業の性質上、教職志望の強い人が履修していることを前提とする。

## 【Outline and objectives】

Students establish responsibility and awareness as teachers of the future through experiences of teachers 'diverse teachers' work at the education site.

SEE400LC

## 教育実習（中・高）

辻本 昭彦

開講時期：年間授業/Yearly

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の現場たる中学校・高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立する。

## 【到達目標】

「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には、①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）、②中学校・高等学校での実習、③実習後の反省と総括（プレゼンテーション等）を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	第3年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義（180分）教育実習指導教員からの説明とともに、生活指導（教科指導・生活指導）に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等
実習中②	教育実習	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
実習中③	教育実習	・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。） ・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
実習中④	教育実習	・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。） ・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
実習中⑤	教育実習	・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。） ・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
実習中⑥	教育実習	・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。） ・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）

実習中⑦ 教育実習

- ・現職の先生の授業を見学
- ・学習指導案の作成
- ・授業実習
- ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
- ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑧ 教育実習

- ・現職の先生の授業を見学
- ・学習指導案の作成
- ・授業実習
- ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
- ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑨ 教育実習

- ・現職の先生の授業を見学
- ・学習指導案の作成
- ・授業実習
- ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
- ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑩ 教育実習

- ・現職の先生の授業を見学
- ・学習指導案の作成
- ・授業実習
- ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
- ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑪ 教育実習

- ・現職の先生の授業を見学
- ・学習指導案の作成
- ・授業実習
- ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
- ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑫ 教育実習

- ・現職の先生の授業を見学
- ・学習指導案の作成
- ・授業実習
- ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
- ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑬ 教育実習

- ・現職の先生の授業を見学
- ・学習指導案の作成
- ・授業実習
- ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
- ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑭ 教育実習

- ・現職の先生の授業を見学
- ・学習指導案の作成
- ・授業実習
- ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
- ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑮ 教育実習

- ・現職の先生の授業を見学
- ・学習指導案の作成
- ・授業実習
- ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
- ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑯ 教育実習

- ・現職の先生の授業を見学
- ・学習指導案の作成
- ・授業実習
- ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
- ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑰ 教育実習

- ・現職の先生の授業を見学
- ・学習指導案の作成
- ・授業実習
- ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
- ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑱	教育実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現職の先生の授業を見学</li> <li>・学習指導案の作成</li> <li>・授業実習</li> <li>・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）</li> <li>・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）</li> </ul>
実習中⑲	教育実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現職の先生の授業を見学</li> <li>・学習指導案の作成</li> <li>・授業実習</li> <li>・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）</li> <li>・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）</li> </ul>
実習中⑳	教育実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現職の先生の授業を見学</li> <li>・学習指導案の作成</li> <li>・授業実習</li> <li>・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）</li> <li>・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）</li> </ul>
実習中㉑	教育実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現職の先生の授業を見学</li> <li>・学習指導案の作成</li> <li>・授業実習</li> <li>・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）</li> <li>・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）</li> </ul>
実習中㉒	教育実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現職の先生の授業を見学</li> <li>・学習指導案の作成</li> <li>・授業実習</li> <li>・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）</li> <li>・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）</li> </ul>
実習中㉓	教育実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現職の先生の授業を見学</li> <li>・学習指導案の作成</li> <li>・授業実習</li> <li>・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）</li> <li>・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）</li> </ul>
実習中㉔	教育実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現職の先生の授業を見学</li> <li>・学習指導案の作成</li> <li>・授業実習</li> <li>・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）</li> <li>・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）</li> </ul>
実習中㉕	教育実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現職の先生の授業を見学</li> <li>・学習指導案の作成</li> <li>・授業実習</li> <li>・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）</li> <li>・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）</li> </ul>
実習中㉖	教育実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現職の先生の授業を見学</li> <li>・学習指導案の作成</li> <li>・授業実習</li> <li>・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）</li> <li>・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）</li> </ul>

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

担当する授業の授業案の作成

**【テキスト（教科書）】**

各プロセスで指示

**【参考書】**

必要に応じて指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

実習校の採点（60％）を主とし、実習日誌の評価（20％）、実習後にまとめる実習レポート（10％）の採点及び事後指導のレポート課題（10％）結果を加味して、総合的に出される。なお、評価は、この両者を総合評価するが、それぞれに一定の基準を満たさなければ、教育実習の単位は修得できない。

**【学生の意見等からの気づき】**

特に無し

**【学生が準備すべき機器他】**

特に無し

**【その他の重要事項】**

授業の性質上、教職志望の強い人が履修していることを前提とする。

**【Outline and objectives】**

Students establish responsibility and awareness as teachers of the future through experiences of teachers' diverse teachers' work at the education site.

SEE400LC

**教育実習（高）**

藤井 章博

開講時期：年間授業/Yearly

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

教育の現場たる中学校・高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立することを目的とする。

**【到達目標】**

未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立する

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には、①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）、②中学校・高等学校での実習、③実習後の反省と総括（プレゼンテーション等）を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり/Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	第3年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義（180分）教育実習指導教員からの説明とともに、生活指導（教科指導・生活指導）に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等
実習中②	教育実習	・現職の先生の授業を見学
実習中③	教育実習	・学習指導案の作成
実習中④	教育実習	・学習指導案の作成
実習中⑤	教育実習	・授業実習
実習中⑥	教育実習	・授業実習
実習中⑦	教育実習	・授業実習
実習中⑧	教育実習	・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
実習中⑨	教育実習	・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
実習後①	派遣校での反省会	・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習後②	派遣校での反省会	・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習後③	事後指導	事後指導として必要に応じて個別のディスカッションを設ける。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

担当する授業の授業案の作成

**【テキスト（教科書）】**

各プロセスで指示

**【参考書】**

必要に応じて指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

実習校の採点を主とし、実習日誌の評価、実習後にまとめる実習レポートの採点及び事後指導の結果を加味して、総合的に出される。

なお、評価は、それぞれ満点を50点とし、この両者を総合評価する。すなわち、実習レポートの採点50%、事後指導の結果50%で評価する。それぞれに一定の基準を満たさなければ、教育実習の単位は修得できない。実習校の採点、日誌・レポートの採点、それぞれが30点以上で合格とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業改善アンケートは実施していない

**【Outline and objectives】**

For students to become high-school information teacher, practical skill training with help of real high-school.

SEE400LC

**教育実習（中・高）**

藤井 章博

開講時期：年間授業/Yearly

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

教育の現場たる中学校・高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立することを目的とする。

**【到達目標】**

未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立する

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には、①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）、②中学校・高等学校での実習、③実習後の反省と総括（プレゼンテーション等）を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり/Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	第3年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義（180分）教育実習指導教員からの説明とともに、生活指導（教科指導・生活指導）に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等
実習中②	教育実習	・現職の先生の授業を見学
実習中③	教育実習	・学習指導案の作成
実習中④	教育実習	・学習指導案の作成
実習中⑤	教育実習	・授業実習
実習中⑥	教育実習	・授業実習
実習中⑦	教育実習	・授業実習
実習中⑧	教育実習	・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
実習中⑨	教育実習	・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
実習後①	派遣校での反省会	・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習後②	派遣校での反省会	・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習後③	事後指導	事後指導として必要に応じて個別のディスカッションを設ける。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

担当する授業の授業案の作成

**【テキスト（教科書）】**

各プロセスで指示

**【参考書】**

必要に応じて指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

実習校の採点を主とし、実習日誌の評価、実習後にまとめる実習レポートの採点及び事後指導の結果を加味して、総合的に出される。

なお、評価は、それぞれ満点を50点とし、この両者を総合評価する。すなわち、実習レポートの採点50%、事後指導の結果50%で評価する。それぞれに一定の基準を満たさなければ、教育実習の単位は修得できない。実習校の採点、日誌・レポートの採点、それぞれが30点以上で合格とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業改善アンケートは実施していない

**【Outline and objectives】**

For students to become high-school information teacher, practical skill training with help of real high-school.

SEE200LC

## 幾何学 A

間下 克哉

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学初年次の微積分・線形代数の知識まで含めて、平面や空間内の図形を調べる様々な方法について学び直し、深い理解と高度な運用能力を身につける。

## 【到達目標】

平面や空間の図形に関する問題を、大学初年次の線形代数学や微積分学で学んだ知識までを総合的に活用して、論理的に正しく、簡潔かつ明快に解説できる能力を獲得することを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックしてください。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	集合と論理	集合および論理についての基本的な用語の復習を行う。直感によらない（ベン図を用いない）集合の相等の証明も行う。
2	関係	関係、同値関係、類別、商集合について学び、数学における分類の考え方を知る
3	写像	写像に関する基本的な用語について復習し、演習を行う
4	行列群	群の概念および、例として行列のなす群について知る
5	線形空間と線形写像	線形空間と線形写像について復習し問題演習を行う
6	内積空間	内積空間、正規直交基底、グラムシュミットの直交化法について復習し問題演習を行う
7	直交行列と等長線形写像	等長線形写像が直交行列によって表されることを知り、平面および空間の合同変換の全体について学ぶ
8	座標変換	線形写像の表現行列
9	2次形式の標準化	2次形式の標準化から出発して固有値・固有ベクトルの概念を導く
10	2次曲線の分類	2次曲線の分類の概略を知る
11	複素平面	複素平面に基礎を復習し問題演習を行う
12	複素数の幾何学への応用	初等幾何の定理の証明に複素平面を利用する方法について知り問題演習も行う
13	一次分数変換	一次分数変換を定義し、その性質を学ぶ
14	総まとめ	総合演習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

高等学校の教科書の章末問題レベルの問題は解けるようになっていないこと、大学初年次の線形代数学、微積分学について十分に理解していることが受講の前提である。

問題演習も行いますが、高校生よりはるかに高い理解、知識の高度な運用能力、高い計算能力を養うことを意図して下さい。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

## 【参考書】

- ・ 高等学校の教科書
  - ・ 高等学校学習指導要領解説数学編・理数編
  - ・ コア講義 線形代数
- その他、適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績(100%)で評価する。

期末試験を受験して不合格となった学生に対する追試等は行わない。

コロナ禍の中で、授業および試験の実施形態の変化によって、成績評価の方法や基準を変更することがあります。

## 【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

## 【その他の重要事項】

高等学校で学ぶ数学、1年次の「微積分学及び演習 I、II」、「線形数学及び演習 I、II」については、十分な知識を有するものとして講義を進めます。

## 【Outline and objectives】

Learn about the various ways to study plane or space geometry.

Students has studied various methods of geometry by high school.

Relearn them and acquire deep understanding and advanced operational skills.

SEE200LC

**幾何学 B**

三橋 秀生

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

初等幾何学の基本概念を学び、それに基づく緻密な論理展開を理解する。その結果として得られる初等幾何学の重要な定理について理解を深める。

**【到達目標】**

初等幾何学について学び、図形に関する高度な知識についての理解を深める。中学校・高等学校の教科書の内容を発展的に捉え、図形について俯瞰的・体系的な考察ができる能力を養う。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義または演習形式で行なう。

オンラインでの開講となった場合の、オンライン授業の方法や各回の授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業全体の紹介を行う。
2	幾何学の基本事項	線分、角
3	三角形	三角形の基本性質、合同
4	四角形と円	四角形と円の基本性質
5	平行線の公理	平行線公理の解説
6	三角形の外心、内心、重心	三角形の外心、内心、重心の性質
7	三角形の垂心、傍心	三角形の垂心、傍心の性質
8	共点、共線	共線や接線の性質
9	チェバの定理	チェバの定理の解説と証明
10	メネラウスの定理	メネラウスの定理の解説と証明
11	デザルグの定理	デザルグの定理の解説と証明
12	シムソンの定理	シムソンの定理の解説と証明
13	初等幾何に関連する発展的課題	初等幾何と関連性のある数学の話題の紹介
14	授業のまとめ	授業の総括

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
受講前に前回までの内容をよく復習しておいてください。

**【テキスト（教科書）】**

特になし

**【参考書】**

1. 秋山武太郎, わかる幾何学, 日新出版
2. 安藤清・佐藤敏明, 初等幾何学, 森北出版
3. 小平邦彦, 幾何のおもしろさ, 岩波書店
4. 清宮俊雄, 幾何学—発見的研究法, 科学新興社

**【成績評価の方法と基準】**

初等幾何学に関連した、図形に関する高度な知識についての理解が深まったかを評価する。また、図形について俯瞰的・体系的な考察ができる能力が身についたかを評価する。

期末試験の結果（100%）で評価する。

オンラインでの開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する場合があります。その場合の具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業中に提示される問や課題演習を通じて理解を深めることが大切である。

**【学生が準備すべき機器他】**

適宜、指示する。

**【その他の重要事項】**

履修者の理解状況等に応じて内容・順序を変更することがあります。担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろから確認をよくするようにしてください。

**【Outline and objectives】**

Learn the basic concept of elementary geometry and understand precise logical development based on it. Understand the important theorem of the resulting elementary geometry.



SEE200LC

## 幾何学C

塚田 和美

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 1) 曲線論の基本的な事柄について学びカルタンの動枠の考え方を理解する。
- 2) 曲面の基本量、曲率、測地線等の基本事項を理解した後、ガウス・ボンネの定理などを学ぶ。

## 【到達目標】

線形代数・微積分学・微分方程式等を基礎とする3次元空間の曲線および曲面の理論を学ぶことにより、線形代数・微積分学等の基礎の理解を深めるとともに数学の諸分野の知識を総合して応用する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

受講者が自らの理解度を確認できるよう、適宜演習や小テストを行なう。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	曲線論・曲面論の概要、ベクトルと行列	曲線論・曲面論の概要を知り、線形代数（ベクトルおよび行列）についての基礎事項の復習を行なう
2	ベクトルと行列（続き）、ベクトル値関数	ベクトル値関数の極限、微分法および積分法の定義を復習し、その計算方法を習得する。
3	平面曲線の曲率	平面曲線の曲率を導入し、意味を理解する。具体例で曲率を求める計算を行う。
4	空間曲線	3次元ユークリッド空間の運動群、曲率、捩率、フレネ・セレの公式を理解する
5	曲線論の基本定理	微分方程式の理論を用いて、曲率と捩率により曲線が一意に決まることを学ぶ。
6	多変数写像の微分	多変数写像の微分、逆写像定理を復習し、具体例の計算を通じて理解を深める。
7	曲面片、曲面の定義	2変数のパラメータ表示としての捉え方を学ぶ。曲面の具体例を知る。
8	曲面の第1基本形式	曲面の第1基本形式の定義と基本的な性質を学び、具体例の計算を行う。
9	多変数関数の積分、領域の面積	多変数関数の積分の基本的な計算方法を復習し、曲面上の領域の面積の計算などに応用する。
10	曲面の第2基本形式	曲面の第2基本形式、ガウス曲率、平均曲率の定義と基本的性質について学び、具体例の計算を行う。
11	測地線	変分法の考え方を知り、測地線の方程式を導く。具体例で測地線を求める。
12	グリーンの定理とガウスの発散定理	グリーンの定理およびガウスの発散定理について復習する。
13	ガウス・ボンネの定理	測地三角形の内角の和とガウス曲率の積分との関係を示すガウス・ボンネの定理について、その内容と証明のポイントを学ぶ。
14	総合演習	質疑応答および問題演習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】微積分学、線形代数、微分方程式の初歩について十分な知識を持っていることを仮定して講義を進める。必要となる知識については、事前に指示するので、復習して知識の確認をしておくこと。

授業の復習として、授業で学んだ基本的な概念や事実について自分が納得できるように理解すること。また、演習問題を実際に解いてみて理解を確認することも大切である。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

## 【参考書】

中内伸光：幾何学は微分しないと 現代数学社

中内伸光：じっくり学ぶ曲線と曲面  
間下克哉：ベクトル解析の基礎・基本 牧野書店  
高等学校学習指導要領解説数学編・理数編

## 【成績評価の方法と基準】

曲線及び曲面の基礎理論を理解できたか、並びに線形代数・微積分学等の基礎の理解を深めるとともに数学の諸分野の知識を総合して応用する能力を身につけたかを期末試験で判断する。成績は、期末試験の結果を75%程度、演習や小テスト等を25%程度とし、総合的に判断して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生の質問、コメントなど積極的な授業参加を促す。板書を効果的にを行い、学生がより効率的に理解できるよう工夫する。

## 【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

## 【Outline and objectives】

- 1) Learn the basics of curve theory and understand the idea of Cartan's moving frames.
- 2) After understanding basic items such as fundamental quantities, curvatures and geodesics of surfaces, learn the Gauss-Bonnet theorem.

SEE100LC

## 特別な教育的ニーズの理解と支援

伊藤 友彦

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害、外国籍や家庭養育基盤が弱いといったことなどにより特別の支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ちながら、子どもたちが生きる力を身につけていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

## 【到達目標】

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身につけ、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

対面による授業を行う予定であり、授業形態は基本的に講義である。この授業では教科書を用いる。各授業のテーマについて課題を提示し、小レポートを提出してもらう。課題の提示と小レポートの提出および小レポートに対するフィードバック（コメントの返却）は学習支援システムを通じて行う。小レポートについては授業内で発表、討論の場を設ける。新型コロナウイルスへの対応により授業の進め方などに変更がある場合は学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価方法（期末試験など）について説明する。近年の特別支援教育に関わる諸動向から、教育制度一般における特別支援の必要性を解説する。
第2回	特別な支援を必要とする子どもたち	特別な教育的ニーズについて、障害の定義や社会的な理解、教育制度の変遷との関係から解説する。
第3回	認知特性とはなにか	情報を入力し、理解し、記憶する認知特性の個人差を扱う。入力段階で制約がある視覚、聴覚障害の特性や支援についても解説する。
第4回	学習障害とその支援	学習障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。学習面の支援について、ICTの活用を中心に紹介する。
第5回	AD/HD、ADD とその支援	AD/HDの特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。行動面の支援について、薬物療法と環境調整を紹介する。
第6回	自閉症スペクトラム障害とその支援	自閉症スペクトラム障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。対人面の支援について、ソーシャルスキル教育やピアサポートを紹介する。
第7回	軽度知的障害とその支援	軽度知的障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。学校生活の支援について、スモールステップ指導を中心に紹介する。知的障害特別支援学校の教育課程についても扱う。
第8回	肢体不自由・病弱な子どもとその支援	肢体不自由、病弱の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。移動や心理面、人間関係の支援について紹介する。肢体不自由特別支援学校の教育課程の類型についても扱う。

第9回	家庭基盤の弱い子どもとその支援	貧困世帯や外国人児童生徒等の割合、学習や生活上の困難について、事例をもとに解説する。地域における学習支援や Japanese as a Second Language (JSL) カリキュラムを中心に紹介する。
第10回	多様性とインクルーシブ教育	インクルーシブ教育の理念をサラマンカ宣言に基づいて解説する。インクルーシブ教育を具現化するための「多様な学びの場」についても扱う。
第11回	個別の指導計画、教育支援計画	児童生徒の実態を把握し、支援計画を立案・実行・評価・改善する「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の意義と活用方法について解説する。
第12回	多様な関係・連携と支援	児童生徒を校内外で組織的に支援するための機関連携について解説する。具体的には、校内委員会や特別支援教育コーディネーターの役割、スクールソーシャルワーカーや医療、保健、福祉、労働機関との連携を扱う。
第13回	介護等体験の意義と留意点	介護等体験の導入経緯や意義を解説する。人権の尊重や配慮、健康・衛生管理、服装、所持品、基本的マナーについて、事例をもとに紹介する。
第14回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	アクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネジメント、通常学校と特別支援学校の「学びの連続性」という点から、特別支援教育の今後の動向と教職員に求められる資質、能力を展望する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は1回につき4時間を標準とする。各授業のテーマについて課される小レポートを作成する。小レポートでは、授業のテーマについての理解と、そのテーマについての自分の考えを求められるので、教科書をよく読み、関連する文献などを検索してテーマについての理解を深める。そのうえで、与えられた文字数を守って、理解しやすい文章になるように注意して小レポートを作成する。

## 【テキスト（教科書）】

柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子（2014）『はじめての特別支援教育－教職をめざす大学生のために－改訂版』有斐閣アルマ

## 【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）  
 ・東京都日野市 公立小中学校全教師・教育委員会（2010）『通常学級での特別支援教育のスタンダード』東京書籍  
 ・宮崎 英憲（監修）（2017）『特別支援教育の実践情報』PLUS 平成 29 年版学習指導要領改訂のポイント 特別支援学校 明治図書出版  
 ・岡南（2010）『天才と発達障害』講談社

## 【成績評価の方法と基準】

授業テーマごと小レポートの成績（提出回数と評価点：60%）と期末試験の成績（40%）によって行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムで各学生に小レポートを返却する際は評価結果のみならず、コメントを付すことにする。学生同士が意見交換をする場を設ける。

## 【学生が準備すべき機器他】

小レポート課題では、学習支援システムを用いるので、学習支援システムを使用できるように機器の準備（パソコンやスマホなど）が必要。

## 【Outline and objectives】

We learn how to support and empower the educationally needy pupils and students such as the developmental and slight intellectual disabled, students with ethnic background, and with resorceless family through inclusive proposition.

SEE100LC

## 総合的な学習の時間の指導法

辻本 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

## 【到達目標】

探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、理科をはじめ各教科ごとに育まれる見方・考え方を働かせて、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的な力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

- ・ワークショップ形式を中心に授業を展開する予定である。
- ・授業デザインや学習指導案の作成を行い、作成者同士の相互評価を行い提出する。
- ・模擬授業をグループで一回実施する。
- ・ICT 機器を活用する。
- ・OPPA（One Page Portfolio Assessment）で毎時間自己評価を行う。
- ・学習支援システムで授業が開始させるのは4月25日からです。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ねらいと目標、進め方、総合的な学習とは何かの考察
2	「総合的な学習の時間」の位置づけ	学習指導要領の目標、授業時数、他教科との関連 総合的な学習の現状
3	カリキュラム上の特徴	問題解決型学習や探求的な学習
4	実社会に活かす学び	学校教育と実社会経験の架橋
5	アクティヴ・ラーニングの技法	ワークショップとファシリテーターの役割
6	具体的な実践例1	SDGs と人権・福祉の実践事例と模擬体験
7	具体的な実践例2	SDGs と環境・街作りの実践事例と模擬体験
8	学校ごとの目標の立て方	学校や地域の状況における目標と内容の検討（診断的評価） パフォーマンス課題
9	年間計画と指導案作成の理解	カリキュラム開発と授業デザインによる指導案の書き方
10	指導案作成と実践的学習1（中学校編）	中学校における授業デザインと指導案作成 グループによる模擬授業とポートフォリオ評価1（形成的評価）
11	指導案作成と実践的学習2（中学校編）	中学校における授業デザインと指導案作成 グループによる模擬授業とポートフォリオ評価2（形成的評価）
12	指導案作成と実践的学習3（高等学校編）	高等学校における授業デザインと指導案作成 グループによる模擬授業とポートフォリオ評価3（形成的評価）
13	指導案作成と実践的学習4（高等学校編）	高等学校における授業デザインと指導案作成 グループによる模擬授業とポートフォリオ評価4（形成的評価）
14	総合的な学習の時間の総括	模擬授業の総括と総合的な学習の役割を問い直す（総括的評価）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・学習時間は、各2時間を標準とします。】

- ・模擬授業の構想を立て、実験教材の準備と練習を行い授業に備える。
- ・授業デザイン、学習指導案の作成を行う。
- ・SDGsの17の目標と169のターゲットについてネット上で予習をする。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。授業プリントで対応します。

## 【参考書】

- ・SDGs（持続可能な開発目標）関連の書籍等

## 【成績評価の方法と基準】

- ・学習指導案及び授業レポートの構想力の評価（20%）
- ・模擬授業におけるプレゼンテーションの評価（20%）
- ・ワークショップ等におけるコミュニケーションの評価・平常点（20%）
- ・毎授業後に記入するOPPシートによる自己評価（20%）
- ・期末テスト（リフレクションテスト）（20%）

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度、好評だったジグソー法などのワークショップ型問題解決の授業を中心に、自己肯定感を高め、批判的思考力、未来志向力の構築をより一層深めるように授業をデザインする。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマホ

## 【その他の重要事項】

- ・授業の性質上、教職志望の強い人や教職に関心の高い人の履修を前提とする。
- ・ワークショップを中心に授業を展開するので、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力は不可欠である。

## 【Outline and objectives】

Understand the significance and principles of comprehensive study time, especially how to set goals and goals for each school. Understand the concept of teaching planning for comprehensive study time, especially the basic theory of exploratory learning, concrete methods of learning centered on dialogue, and methods of cooperation with other subjects, and actually teach Be able to make plans. Understand the concept of teaching and evaluation of comprehensive study time and points to keep in mind in practice.

SEE200LC

## 情報化社会と職業

藤井 章博

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高等学校の「情報」関連科目を教授するために必要な基本的知識の習得を行う。また、高度情報化社会を形作る、重要な情報技術を取り上げ、それらを社会的な観点から俯瞰する。さらに、職業の現場で利用されている情報技術の事例を述べ、情報教育後のキャリアパスに関する理解を深める。

### 【到達目標】

「高等学校学習指導要領」に定められている教育項目に従い、情報教育の目標となっている情報活用の実践力、情報の科学的理解、情報社会に参画する態度の3つの柱の達成を目標とする。前2項目は、応用情報工学科カリキュラムのなかで涵養されることを前提に、特に情報社会の現状を深く理解することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

座学によって、関連知識・背景を説明した上で、ビデオ教材を利用し、テーマの理解を深める。その上で、議論・レポートによって履修者の考えを深める。レポートの内容に関する発表会を実施し、生徒間で意見交換を行ったうえで指導を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報化社会に至る道（歴史的視点）	コンピュータとネットワークの技術進化の過程を振り返る。
2	ビジネスと情報システム I（概要）	職業分野でコンピュータがどのように利用されているか。食品流通分野での事例
3	ビジネスと情報システム II（各種オペレーション）	前回の続き、機械部品流通分野での事例
4	高度情報化社会とイノベーション	NHK作成DVD、プロジェクトX鑑賞。流通分野での情報化。
5	情報システム開発の実際	同上。情報システム開発の現場。イノベーションの実際。
6	ビジネスと情報システム III（分散処理）	同上。高速コンピュータシステムの開発事例
7	情報化社会の人材育成	情報技術分野の資格試験の概要。
8	国際社会と高度情報化社会	海外の情報通信分野の施策紹介。
9	情報倫理と情報管理 I（法的規制）	職業倫理と情報倫理について、過去の事例を学ぶ。フォードビント事件に関する映像資料の鑑賞。
10	情報倫理と情報管理 II（職業倫理）	映像資料の鑑賞続き。
11	高度情報化社会と国家政策	次世代情報通信ネットワークの姿。総務省の施策検証。
12	情報通信政策の現状	国内の情報通信分野の施策紹介。
13	情報通信の将来像 I（予測調査結果より）	文部科学省、科学技術予測調査の概要と今後の情報通信分野の予測結果の紹介。
14	情報通信の将来像 II（先端技術動向）	前回の続き

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】自らが、初等・中等教育の現場で「情報」分野の授業を担当し教育することを想定する。その演習内容の企画を考えてほしい。講義内容を参考に期末に提出するレポートに反映していただきます。

### 【テキスト（教科書）】

「高等学校学習指導要領解説・情報編」文部科学省

### 【参考書】

近藤勲編著「情報と職業」丸善  
 本田敏明編著「情報教育の新パラダイム」丸善  
 山田恒夫「情報のセキュリティと倫理」放送大学教育振興会

### 【成績評価の方法と基準】

「授業外に行うべき学習活動」欄で述べた模擬授業内容に関連するレポートを提出する。その評価と出席率を総合的に評価する。出席し、教室で討論を行うことを80%、学期末の総合レポートの評価点を20%とし、採点する。6割以上の出席とレポートの提出は、採点の条件とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

ビデオ教材を利用することは好評であり、利用するコンテンツの吟味・刷新を行う。

### 【Outline and objectives】

For students to become high-school information science, basic knowledge and common issue is discussed.

SEE300LC

## 教育実習（事前指導）

田神 仁

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、○教育実習で数学教育を行うに当たって理解しておくべき基本的な考え方を学ぶ。：①実習前に準備しておくこと②実習中の心構え③実習後のまとめと反省の仕方に分けて、教育実習の在り方等について学ぶ。○授業をはじめ、学校での様々な場面の生徒との関わりを模擬体験し、生徒の心理や行動について理解を深める。○生徒指導やキャリア教育、保護者対応など、演習を通して学級経営に関わる教員の職務を理解する。

## 【到達目標】

○教員に求められている資質・能力の具体的な内容から教育実習の目的を理解する。○単元指導計画の立案、学習指導案の作成、学習指導の技術・課題等の整理に関する知見を身に付け、教育実習生としての資質向上を図る。○生徒指導や学習指導等に関する基本的な知識を身に付けるとともに、演習を通して教員としての意識高揚及び実践的指導力の向上を図る。○学級の意義と学級経営の在り方を知り、担任業務を学ぶ上での心構えと準備ができる。○4年生による教育実習体験報告会を通じて、自らの教育実習における課題を明確にする。○今年度の教員採用試験合格体験発表会を通じて教員としての意識高揚を図る。○教育委員会による教員採用選考説明会、先輩教員を囲む会を通して、これからの教員に求められる資質・能力や学校の実態、教員研修や働き方改革等の現状に関する知見を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

○毎回 zoom によるオンライン授業とする。○PC、通信回線、Webカメラ、マイクを用意すること。○授業では講義もあるが、ブレイクアウトルームの用いたグループ協議やロールプレイング等の演習を中心に進める。○教職課程履修中の4年生と連携し、教育実習報告会や合格体験談発表会を通して、教育実習に当たっての留意点の確認、教員採用選考へ向けた意識高揚を図る。○卒業生の現職教員を招き、教員の魅力や現状等について理解を図る予定。★課題の提出及び返却は、学習支援システムを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	○講義概要説明等のガイダンス、学習指導要領について	○講義概要の説明○年間授業計画提示○履修カルテの提出○学習指導要領に関する講義・演習
第2回	○教育実習に向けた教職の理解	○教育実習に向けた意識等に関するグループワーク
第3回	○学習指導案○生徒指導	○学習指導案に関する講義○授業外課題の提示（学習指導案）○生徒指導及び教員の在り方等に関する演習
第4回	○4年生の教育実習体験報告を通した実習課題の明確化（1）中学校	○中学校における教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消
第5回	○4年生の教育実習体験報告を通した実習課題の明確化（2）高等学校	○高等学校における教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消

第6回	○4年生の教育実習体験報告を通した実習課題の明確化（3）私立学校	○私立学校における教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消○公立学校との違いの理解
第7回	○4年生の教育実習体験報告を通した実習課題の明確化（4）数学教育	○中学校・高等学校における教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消
第8回	○4年生の教育実習体験報告を通した実習課題の明確化（5）中高一貫教育	○中高一貫教育校における数学の教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消○中高一貫教育校における教育実習の留意点の明確化
第9回	○4年生の教育実習体験報告を通した実習課題の明確化（6）学校運営	○中学校・高等学校における教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消○校務分掌など教員の仕事の確認
第10回	○教員採用選考合格者体験談発表会（理数合同）	○合格体験談を聞くことを通じて、教育実習での心構えや教員採用選考への準備の仕方学ぶ。
第11回	○教育委員会による教員採用選考説明会・先輩教員を囲む会（理数合同）	○働き方改革、教員研修など学校教育の現状についての講義○教員採用選考に向けた準備内容・方法等の確認○各都県の教員採用選考や学校の現状等についての理解
第12回	○教員の働き方改革	○ジグソー学習による教員の働き方改革に関する理解
第13回	○教育時事についての理解（キャリア教育） ○担任の業務の理解（保護者対応）	○ロールプレイングを通したキャリア教育に関する事例研究○履修カルテ返却※授業外課題の提出
第14回	○教育実習等に関する再確認	○グループワークを通した教育実習等に関する再確認○教育実習における抱負と課題の明確化

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
○中学校及び高等学校の現行及び次期学習指導要領全体について理解を深めておく。○次期学習指導要領（中高数学科）に目を通し、特に学習指導案を作成する単元について調べておく。○日々の学校教育に関わるニュースや現場の課題等（教育時事）について関心をもち、考察する。○教員採用選考受験予定者は、志望自治体の教員採用選考に関する知見を深めておく。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

○学習指導要領中学校数学（平成29年3月文部科学省）○学習指導要領高等学校数学（平成30年3月文部科学省）○中学校キャリア教育の手引き（平成23年5月文部科学省）○高等学校キャリア教育の手引き（平成24年2月文部科学省）○生徒指導提要（平成22年3月文部科学省）○授業中の配布資料

## 【成績評価の方法と基準】

○各回の授業で提出した課題の提出状況、記入状況、授業外課題の提出状況、記入状況（50%）、授業中の取り組み姿勢（50%）により評価する。○期末試験は、実施しない。★この授業に合格しない者は、教育実習を行うことができない。★本授業の評価と実習校による評価とを併せて次年度の科目「教育実習」として評価される。したがって、3年次末には本授業の評価は通知されない。

**【学生の意見等からの気づき】**

本授業は授業改善アンケートの対象ではないが、前年度の受講生からの聞き取りによれば、zoomを用いてアクティブ・ラーニングを意識した学生参加型の演習を行ったことが極めて好評であった。そのため、今年度の本授業においては、一層参加型の授業を目指す。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業に持参すべきものがあれば、事前に通知する。

**【Outline and objectives】**

Students ○ learn basic concepts to understand in mathematics education in teaching practice. : ① Preparing before practical training ② Mental attitude during practical training ③ the way of teaching practical training etc. divided into how to summarize after practical training and how to reflect. ○ Simulate experiences related to students in various situations at school, including classes, and deepen their understanding of students' psychology and behavior. ○ Understand the morals and special activities, as well as the duties of teachers involved in class

SEE300LC

## 教育実習（事前指導）

辻本 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、○教育実習で理科教育を行うに当たって理解しておくべき基本的な考え方を学ぶ。：①実習前に準備しておくこと②実習中の心構え③実習後のまとめと反省の仕方に分けて、教育実習の在り方等について学ぶ。○授業をはじめ、学校での様々な場面の生徒との関わりを模擬体験し、生徒の心理や行動について理解を深める。○道徳や特別活動、更には学級経営に関わる教員の職務を理解する。

## 【到達目標】

○教員に求められている資質・能力の具体的な内容から教育実習の目的を理解する。○単元指導計画の立案、学習指導案の作成、学習指導の技術・課題等の整理に関する知見を身に付け、教育実習生としての資質向上を図る。○生徒指導や学習指導等に関する基本的な知識を身に付けるとともに、演習を通して教員としての意識高揚及び実践的指導力の向上を図る。○学級の意義と学級経営の在り方を知り、担任業務を学ぶ上で心構えと準備ができる。○4年生による教育実習体験報告会を通じて、自らの教育実習における課題を明確にする。○教育委員会による教員採用選考説明会を通して、これからの教員に求められる資質・能力や学校の実態、教員研修や働き方改革等の現状に関する知見を深める。○今年度の教員採用選考合格者の体験報告を通じて教員としての意識高揚を図るとともに、採用選考への準備を始める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

・授業は講義だけでなく、グループ協議やロールプレイング等の演習の他、教職課程履

修中の4年生と連携し、教育実習報告会や合格体験談発表会を通して、教育実習に当た

る留意点の確認、教員採用選考へ向けた意識高揚を図る。

・OPPA（一枚ポートフォリオ評価）で毎回自己評価を行う。

・学習支援システムを通じて、毎回の提出課題とOPPAで授業のふりかえりを行い、受

講者の考えを整理し、コメントを行い、必要に応じて授業でフィードバックする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	○講義概要説明等のガイダンス、学習指導要領について	○講義概要の説明○年間授業計画提示○履修カルテの提出○学習指導要領に関する講義・演習
第2回	○教育実習に向けて	○教育実習に向けた意識等に関するグループワーク
第3回	○4年生の教育実習体験報告を通じた実習課題の明確化（1）中学校	○中学校における教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消
第4回	○4年生の教育実習体験報告を通じた実習課題の明確化（2）高等学校	○高等学校における教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消
第5回	○4年生の教育実習体験報告を通じた実習課題の明確化（3）私立学校	○私立学校における教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消○公立学校との違いの理解
第6回	○4年生の教育実習体験報告を通じた実習課題の明確化（4）理科教育	○中学校・高等学校における理科の教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消
第7回	○4年生の教育実習体験報告を通じた実習課題の明確化（5）中高一貫教育	○中高一貫教育校における理科の教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消○中高一貫教育校における教育実習の留意点の明確化
第8回	○4年生の教育実習体験報告を通じた実習課題の明確化（6）学校運営	○中学校・高等学校における教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消○校務分掌など教員の仕事の確認
第9回	○教育実習で体験すること	○教育実習で体験すると予想される事例について、グループワークや発表等を通して対策を協議・検討する。
第10回	○学習指導案○教育実習で起こる生徒指導○教員の在り方	○学習指導案の書き方に関する講義○生徒指導及び教員の在り方に関するグループ協議○授業外課題の提示（学習指導案）
第11回	○教員採用選考合格者体験談発表会	○合格体験談を聞くことを通じて、教育実習での心構えや教員採用選考への準備の仕方を学ぶ。

第12回 ○教育委員会による教員採用選考説明会

○働き方改革、教員研修など学校教育の現状についての講義○教員採用選考に向けた準備内容・方法等の確認○各都県の教員採用選考についての理解

第13回 ○教育時事についての理解（キャリア教育）

○ロールプレイングを通じたキャリア教育に関する事例研究○履修カルテ返却※授業外課題の提出

第14回 ○教育実習等に関する再確認

○グループワークを通じた教育実習等に関する再確認○教育実習における抱負と課題の明確化

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】○中学校及び高等学校の現行及び次期学習指導要領全体について理解を深めておく。○次期学習指導要領（中高理科）に目を通し、特に学習指導案を作成する単元について調べておく。○日々の学校教育に関わるニュースや現場の課題等（教育時事）について関心をもち、考察する。○教員採用選考受験予定者は、志望自治体の教員採用選考に関する知見を深めておく。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

○学習指導要領中学校理科（平成29年3月文部科学省）○学習指導要領高等学校理科編理数編（平成30年3月文部科学省）○中学校キャリア教育の手引き（平成23年5月文部科学省）○高等学校キャリア教育の手引き（平成24年2月文部科学省）○生徒指導提要（平成22年3月文部科学省）○授業中の配布資料

## 【成績評価の方法と基準】

○授業中の取り組み姿勢（50%）、各回の授業で提出した課題の提出状況、記入状況、授業外課題の提出状況、記入状況（50%）により評価する。○期末試験は、実施しない。★この授業に合格しない者は、教育実習を行うことができない。★本授業の評価と実習校による評価とを併せて次年度の科目「教育実習」として評価される。したがって、3年次末には本授業の評価は通知されない。

## 【学生の意見等からの気づき】

本授業は授業改善アンケートの対象ではないが、前年度の受講生からのOPPA（一枚ポートフォリオ評価法）によるコメントより、グループディスカッションやプレゼンなどのアクティブ・ラーニングを意識した学生参加型の演習を行ったことが極めて好評であった。そのため、今年度の本授業においては、一層参加型の授業を目指す。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業に持参すべきものがあれば、事前に通知する。

## 【Outline and objectives】

Students ○ learn basic concepts to understand in mathematics education in teaching practice. : ① Preparing before practical training ② Mental attitude during practical training ③ the way of teaching practical training etc. divided into how to summarize after practical training and how to reflect. ○ Simulate experiences related to students in various situations at school, including classes, and deepen their understanding of students' psychology and behavior. ○ Understand the morals and special activities, as well as the duties of teachers involved in class

SEE200LC

## 教育方法論

藤牧 朗

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

## 【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

基本的に、アクティブラーニング型授業で進めていきます。座席の移動を伴うグループ活動や身体的な活動、授業内での発表などが毎授業にあります。

自己評価を含む課題も原則的に毎回出しますので期限内に遅れないように提出してください（期限内に遅れた提出物は評価できません）。「主体的・対話的で深い学び」に連なるさまざまな授業を体験し、その意義に気づき、ひとり一人が自分に適した学び方及び授業方法を確立できるように努めます。

授業を中心とした学校現場における広くさまざまな教育方法について、理論に基いて理解した上で、さまざまな授業方法を疑似体験できるような時間をつくり、各自が考え、グループで議論し適当と考える方法を選択し、授業づくりを行います。

また、さまざまな生徒指導について実践的に考える機会もあります。主体的に学ぶこと、対話的に学ぶこと、そしてそれによって学びが深くなることを体験していきます。

授業終了時にリフレクションプリントの記入を行い、そのプリント内容に関して次の授業時にできるだけコメントを加え、さらにその意見に基づいて授業展開を臨機応変に変化させていきます。そのことが、後の実践に役に立つように考えています。

全体として「入れ子構造」となった授業としていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	アイスブレイクの方法 自分たちが受けてきた教育の振り返りをおこなう
第2回	教育方法と教師の専門性	教育方法論を通して何を学ぶかをいっしょに考える
第3回	教育方法の基礎的理論	「教育とは何か」を改めて考える
第4回	新学習指導要領と教育方法～知識基盤社会と社会構成主義	新教育課程で目指しているものと教育方法を学ぶ
第5回	教育の内容と学習活動	「教えて考えさせる授業」の考え方を理解し、実際に体験する
第6回	学習活動と学習環境	協調学習（ジグソー法）の考え方を理解し、実際に体験する
第7回	教育目標の明確化	「学びの共同体」の考え方を理解し、実際に体験する
第8回	個に応じた指導の工夫	『学び合い』の考え方を理解し、実際に体験する
第9回	主体的・対話的で深い学び	演劇的手法を取り入れた授業の考え方を理解し、実際に体験する 「身体活動が思考を深める」ことを認識する

第10回	学力と評価の観点～ルーブリックの利用	ルーブリックを作成・使用する中で「学力とは何か」を考え、評価とはどのようにあるべきかを考える
第11回	情報機器及び教材の活用	K P法及びI C T機器利用の場合の授業展開の実際を比較して考える
第12回	生徒指導などの指導技術	さまざまな場面での生徒とのかかわりについて考える
第13回	教育評価～ルーブリックを用いて	実際に模擬授業を行い、その評価を行う
第14回	授業のまとめ、テスト	授業のデザインの中での反省と評価

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
・毎授業時の小課題（自己評価を含む）を提出する。  
・学習指導案作成課題を必ず提出する。

## 【テキスト（教科書）】

梶谷真司「考えるとはどういうことか」幻冬舎新書、2018（840円＋税）  
渡部淳「アクティブ・ラーニングとは何か」岩波新書、2020（800円＋税）

## 【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）  
秋田喜代美・佐藤学「新しい時代の教職入門」（改訂版）有斐閣、2015  
市川伸一「授業からの学校改革」図書文化、2017  
西川純「2030年教師の仕事はこう変わる」学陽書房、2018  
籾木良夫「わかる授業の指導案80」芸術新聞社、2013  
渡部淳＋獲得型教育研究会「AL 授業が活性化する参加型アクティビティ入門」学事出版、2018  
川島直、皆川雅樹「アクティブラーニングに導くK P法実践」みくに出版、2016  
石井英真「授業づくりの深め方」ミネルヴァ書房、2020  
小林和雄「真正の深い学びへの誘い」晃洋書房、2019  
その他適宜示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加（毎回の課題提出を含む）姿勢（50%）  
課題（指定の学習指導案）（30%）  
期末試験（20%）  
をもとに総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

実際に授業中など学校内であった生徒とのやり取りなど、できるだけ直近の中学校高等学校で起こった実体験に基づいた具体的な話をに入れていく予定です。  
学びの促進を促すため、内容及び順序を入れ替えて授業を行うこともありますのであらかじめご承知おきください。  
受講生から、「哲学対話や演劇的手法を学ぶことができた。」「多彩なグループワークを体験できて自分の意見に自信をもつことができた。」「この授業を受けたとき、初めは違和感や反感を感じたが、あとになってそれは今までに板書を写す授業しか受けていなかったからだどわかった。」「活動することにより理解が深まるということがとても実感できました。」「など意見ももらっています。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコンまたはタブレットを準備しておいてください。

## 【その他の重要事項】

授業の性質上、教職志望の強い人が履修していることを前提とします。



したがって、授業時及びまとめ課題の未提出、授業中の過度の私語、居眠りなどは原則として単位を認定できません。受講学生数及び進路希望等諸般の事情により、授業内容の進め方等は変わります。ご承知おきください。

-----

私立文系、国立理系の大学を卒業しています。  
現在まで、教員免許 10 枚（文系理系共に含む）を所持し、公立中学校、公立高等学校、私立中学校、私立高等学校（全寮制も含む）さらに専門学校、そして、共学校、男子校、女子校など多種多様な学校での教員をしてきました。さらに、塾、予備校での指導も経験してきました。教科担当としても、理系文系にかかわらず指導してきました。

**【Outline and objectives】**

This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

SEE400LC

## 教職実践演習（中・高）

辻本 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、本授業を通して、教職課程全体で得た教員として必要な知識技能を習得できたか否かを確認する。必要なら不足している知識や技能等を補うとともに、更なる資質向上を目指す。

## 【到達目標】

教員に相応しい知識・技能及び教職を目指す姿勢の向上を目標とする。具体的には、①学習指導案作成や生徒への指導等、授業に関する実践的指導力の向上②理科における教育内容・方法についての研究及び教材作成能力の向上③生徒理解及び学級経営の在り方に関する知見習得④将来の教育職に向けた意志の確認と各自の目標の設定⑤教員として必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の体得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

・授業は講義だけでなく、グループ協議やロールプレイングの他、教職履修の3年生への

教育実習報告及び質疑応答を通して、教育実習をはじめ教職課程全体を振り返り替える。

・OPPA（一枚ポートフォリオ評価）で毎回自己評価を行う

・学習支援システムを通じて、毎回の提出課題とOPPAで授業のふりかえりを行い、受

講者の考えを整理し、コメントを行い、必要に応じて授業でフィードバックする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	◎本講義の目標と性格について	◎本講義の性格、課題、到達すべき目標の確認。◎学習指導要領に関する講義・演習
第2回	◎教職について及び教員としての意識のもち方等の再確認	◎グループワークを通じた教職や教師の意識等に関する知見収集
第3回	◎教育実習報告を通じた実習のまとめと3年生への助言（1）中学校	◎中学校における教育実習の留意点等についての報告と後輩へのアドバイス
第4回	◎教育実習報告を通じた実習のまとめと3年生への助言（2）高等学校	◎高等学校における教育実習の留意点等についての報告と後輩へのアドバイス
第5回	◎教育実習報告を通じた3年生への教育実習アドバイス及び検討（3）私立学校	◎私立学校における教育実習の留意点等についての報告と後輩へのアドバイス
第6回	◎教育実習報告を通じた3年生への教育実習アドバイス及び検討（4）理科教育	◎理科の教育実習における成果と課題の報告と後輩へのアドバイス
第7回	◎教育実習報告を通じた3年生への教育実習アドバイス及び検討（5）中高一貫教育	◎中高一貫教育校における教育実習の留意点等についての報告と後輩へのアドバイス
第8回	◎教育実習報告を通じた3年生への教育実習アドバイス及び検討（6）学校運営	◎中学校・高等学校における校務分掌等の業務についての報告と後輩へのアドバイス
第9回	◎教育時事について	◎教育時事の話題等について、グループワークを通じた理解
第10回	◎生徒指導について	◎校務分掌、基本的な生活習慣等生徒指導に関する講義◎いじめ、校則に関する演習
第11回	◎教員採用選考合格者による後輩へのアドバイス◎教育実習体験報告（秋季実施分）	◎教員採用選考に関する体験報告を通じた振り返りと後輩へのアドバイス◎秋季実施の教育実習報告による振り返りと後輩へのアドバイス
第12回	◎学級経営について	◎事例による演習を通じた担任としての指導力向上
第13回	◎キャリア教育について◎進路指導について	◎講義を通じたキャリア教育に関する理解◎事例に基づくグループ協議を通じた進路指導についての理解

第14回 ◎SDGs等の今日の教育課題の確認 ◎教育実習体験等まとめ及び教職課程の総括 ○グループワークによる今日の教育の理解○半年間のまとめと教職への意識高揚

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】◎教育実習の体験をまとめ、プレゼンテーションの準備をする。◎教科指導や生徒指導等について、教育実習の体験を踏まえて再確認する。◎社会的に話題になった教育問題等の教育時事について把握し、自分の考えをもつ。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて資料を配布、あるいは指定する。

## 【参考書】

◎学習指導要領中学校理科（平成29年3月文部科学省）◎学習指導要領高等学校理科編理数編（平成30年3月文部科学省）◎中学校キャリア教育の手引き（平成23年5月文部科学省）◎高等学校キャリア教育の手引き（平成24年2月文部科学省）◎生徒指導提要（平成22年3月文部科学省）◎授業中の配布資料

## 【成績評価の方法と基準】

授業中の取り組み姿勢（50%）、各回の授業後に提出した課題の提出状況、記入状況、授業外課題の提出状況、記入状況（50%）により評価する。期末試験は、実施しない。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業改善アンケート結果によれば、アクティブ・ラーニングを意識した学生参加型の演習やワークショップを行ったことが極めて好評であった。そのため、本授業においても参加型授業に向けて更なる工夫を行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

持参すべきものがあれば、事前に指示する。

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【Outline and objectives】

Through this lesson, students confirm whether they have acquired the necessary knowledge skills as teachers obtained through the teacher training course as a whole. If necessary, supplement missing knowledge and skills, and aim for further improvement of qualities.

SEE400LC

## 教職実践演習（中・高）

田神 仁

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、本授業を通して、教職課程全体で得た教員として必要な知識技能を習得できたか否かを確認する。必要なら不足している知識や技能等を補うとともに、更なる資質向上を目指す。

## 【到達目標】

教員に相応しい知識・技能及び教職を目指す姿勢の向上を目標とする。具体的には、①学習指導案作成や生徒への指導等、授業に関する実践的指導力の向上②数学科における教育内容・方法についての研究及び教材作成能力の向上③生徒理解及び学級経営の在り方に関する知見習得④将来の教育職に向けた意志の確認と各自の目標の設定⑤教員として必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の体得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

○毎回、zoomを用いたオンライン授業とする。○PC、通信回線、Webカメラ、マイクを用意すること。○授業では講義もあるが、ブレイクアウトルームを用いたグループ協議やロールプレイング等の演習を中心に進める。○教職履修の3年生への教育実習報告及び質疑応答を通して、教育実習をはじめ教職課程全体を振り替える。★課題の提出及び返却は、学習支援システムを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	◎本講義の目標と性格について◎学習指導要領に関する理解	◎本講義の性格、課題、到達すべき目標の確認。◎学習指導要領に関する講義・演習
第2回	◎教職について及び教員としての意識のもち方等の再確認	◎グループワークを通じた教職や教師の意識等に関する知見収集
第3回	◎生徒指導、教員の在り方に関する理解	◎グループワーク（演習）を通して、生徒指導、教員の在り方について理解する。
第4回	◎教育実習報告を通じた実習のまとめと3年生への助言（1）中学校	◎中学校における教育実習の留意点等についての報告と後輩へのアドバイス
第5回	◎教育実習報告を通じた実習のまとめと3年生への助言（2）高等学校	◎高等学校における教育実習の留意点等についての報告と後輩へのアドバイス
第6回	◎教育実習報告を通じた3年生への教育実習アドバイス及び検討（3）私立学校	◎私立学校における教育実習の留意点等についての報告と後輩へのアドバイス
第7回	◎教育実習報告を通じた3年生への教育実習アドバイス及び検討（4）数学教育	◎数学科の教育実習における成果と課題の報告と後輩へのアドバイス
第8回	◎教育実習報告を通じた3年生への教育実習アドバイス及び検討（5）中高一貫教育	◎中高一貫教育校における教育実習の留意点等についての報告と後輩へのアドバイス

第9回 ◎教育実習報告を通じた3年生への教育実習アドバイス及び検討（6）学校運営

第10回 ◎教員採用選考合格者による後輩へのアドバイス◎教育実習体験報告（報告未実施分）

第11回 ◎生徒指導について

第12回 ◎学級経営について

第13回 ◎教育時事についての理解（キャリア教育）◎担任の業務の理解（保護者対応）

第14回 ◎SDG's等の今日の教育課題の確認◎教育実習体験等のまとめ及び教職課程の総括

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】  
○教育実習の体験をまとめ、プレゼンテーションの準備をする。○教科指導や生徒指導等について、教育実習の体験を踏まえて再確認する。○社会的に話題になった教育問題等の教育時事について把握し、自分の考えをもつ。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて資料を配布、あるいは指定する。

## 【参考書】

○学習指導要領中学校数学（平成29年3月文部科学省）○学習指導要領高等学校数学（平成30年3月文部科学省）○中学校キャリア教育の手引き（平成23年5月文部科学省）○高等学校キャリア教育の手引き（平成24年2月文部科学省）○生徒指導提要（平成22年3月文部科学省）○授業中の配布資料

## 【成績評価の方法と基準】

各回の授業後に提出した課題の提出状況、記入状況、授業外課題の提出状況、記入状況（50%）、授業中の取り組み姿勢（50%）により評価する。期末試験は、実施しない。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業改善アンケート結果によれば、zoomを用いてアクティブラーニングを意識した学生参加型の演習を行ったことが極めて好評であった。そのため、本授業においてもzoomによる参加型授業に向けて更なる工夫を行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

持参すべきものがあれば、事前に指示する。

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【Outline and objectives】

Through this lesson, students confirm whether they have acquired the necessary knowledge skills as teachers obtained through the teacher training course as a whole. If necessary, supplement missing knowledge and skills, and aim for further improvement of qualities.

SEE100LC

**地学概論 I****辻 忠恭**

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では、天体の運動や大気の大気運動など、宇宙・気圏・水圏・固体地球における地球に係わる諸現象について紹介する。そして、その要因となる基本原理・基本法則の理解を深める。

**【到達目標】**

日常生活に関連する地学的諸現象についての学習を通して、各現象に含まれる基本原理・基本法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。

- ・太陽系、銀河系
- ・大気中に起る現象
- ・天気の現象
- ・水陸分布と気象の成り立ち
- ・地殻の変動

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義形式による授業を基本として進める。適宜、動画資料も使用し理解を深める。

各回実施のリアクションペーパーより疑問点を取り上げ、次回の授業の初めに全体に対してフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	地学とはなにか？	地学とはなにか？
第2回	宇宙における地球 1	太陽系
第3回	宇宙における地球 2	宇宙の誕生と銀河
第4回	大気中に起る現象 1	大気と大気放射
第5回	大気中に起る現象 2	気圧
第6回	大気中に起る現象 3	風
第7回	大気中に起る現象 4	雲
第8回	大気中に起る現象 5	降水
第9回	天気の現象 1	天気の変化
第10回	天気の現象 2	台風
第11回	大気と海洋 1	大気大循環と世界の気候区分
第12回	大気と海洋 2	海水の運動
第13回	活動する地球	地形と地震
第14回	全体のまとめ	全体のまとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】前回の授業内容を理解しておくこと。

**【テキスト（教科書）】**

講義の都度、資料を配布する。

**【参考書】**

田淵 洋編著「自然環境の生い立ち（第3版）－第四紀と現在－」朝倉書店  
水越允治・山下脩二「気候学入門」古今書院  
森山 茂「宇宙と地球の科学」開成出版

**【成績評価の方法と基準】**

試験に加え、平常点として授業中の参加の度合を考慮し、総合的に判断する。  
※試験 80%，平常点（授業参加の姿勢、リアクションペーパーの内容等）20%

**【学生の意見等からの気づき】**

疑問点に関しては、次の講義の時点で補足の解説を実施する。

**【Outline and objectives】**

We will learn various phenomena related to the earth in the space, atmosphere, hydrosphere, geosphere, such as planetary motion and atmospheric circulation.

And We will understand the basic principles and basic rules that are the factors.

SEE100LC

## 地学概論 II

辻 忠恭

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、光化学スモッグ、熱汚染、水質汚濁、火山災害、地震災害などを地球科学的現象として紹介する。そして、地球環境と人間活動との接点について理解を深める。

### 【到達目標】

環境問題や災害等についての学習を通して、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地球科学的な自然観を育成する。

- ・大気汚染
- ・感覚公害
- ・水質汚濁
- ・土壌汚染
- ・災害

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式による授業を基本として進める。適宜、動画資料も使用し理解を深める。

各回実施のリアクションペーパーより疑問点を取り上げ、次回の授業の初めに全体に対してフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	地学とはなにか？	地学とはなにか？
第2回	大気汚染 1	太陽放射と気温と大気汚染
第3回	大気汚染 2	風と雲と大気汚染
第4回	感覚公害 1	日照権問題
第5回	感覚公害 2	悪臭公害と騒音公害
第6回	水質汚濁 1	河川と水質汚濁
第7回	水質汚濁 2	海洋と環境汚染
第8回	水質汚濁 3	地下水と環境問題
第9回	土壌汚染	土壌学と土壌汚染
第10回	都市災害	落雷、集中豪雨
第11回	災害 1	ダウンバースト、竜巻
第12回	災害 2	火山災害と防災
第13回	災害 3	地震災害と防災
第14回	全体のまとめ	全体のまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】前回の授業内容を理解しておくこと。

### 【テキスト（教科書）】

講義の都度、資料を配布する。

### 【参考書】

福岡義隆「環境と地学－大気と水と土」森北出版株式会社  
浅井富雄著「ローカル気象学」東京大学出版会

### 【成績評価の方法と基準】

試験に加え、平常点として授業中の参加の度合を考慮し、総合的に判断する。  
※試験 80%，平常点（授業参加の姿勢、リアクションペーパーの内容等）20%

### 【学生の意見等からの気づき】

知的興味を満たし、新しい発見があるよう心がける。

### 【Outline and objectives】

We will learn photochemical smog, heat pollution, water pollution, volcanic disaster, earthquake disaster etc. as Earth scientific phenomena. Then, We will understand the relationship between the global environment and human activities.

SEE100LC

**地学実験**

辻 忠恭

開講時期：秋学期集中/Intensive(Fall)

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

宇宙と気圏、水圏、岩石圏を対象とし、目的意識をもって実験・観測・野外実習を行う。

- ・ 体験的に現象を理解する
- ・ 地学における実験・観測器材の具体的な使用方法を習得する
- ・ 実験・観測器材を用いた各種データの取り方を習得する
- ・ コンピュータを用いた分布図の作成やグラフ化
- ・ データの処理方法・解析方法や解釈の仕方を習得する

**【到達目標】**

小気候観測や天体観測等の作業を通して、体験的に現象を理解すると共に、地学における実験・観測器材の具体的な使用方法と各種データの取り方から、コンピュータを用いた分布図の作成やグラフ化等のデータの処理方法・解析方法や解釈の仕方など、基礎的な技術を習得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

関連知識・方法を解説した上で、少人数のグループで行う観測・実験を中心に授業を進める。

各テーマのまとめにおいて、観測・実験結果のレポートを作成。

疑問点については適宜回答。リアクションペーパーも実施し、疑問点については、次回の実施日初めに全体に対してフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	太陽の観察 1	太陽の日周運動の観察
第2回	太陽の観察 2	太陽の日周運動のまとめ
第3回	大気運動の実験 1	コリオリの実験
第4回	大気運動の実験 2	海陸風の実験
第5回	大気運動の実験 3	コリオリ・海陸風の実験のまとめ
第6回	気象観測 1	気象観測の方法
第7回	気象観測 2	気象の野外観測
第8回	気象観測 3	コンピュータによる観測結果のデータ解析
第9回	気象観測 4	気象観測のまとめ
第10回	水文観測 1	採水と水温・透明度の観察方法と野外観測
第11回	水文観測 2	採水と水温・透明度のまとめ
第12回	地質観察 1	地形図とクリノメーターに関する作業
第13回	地質観察 2	地質観察のまとめ
第14回	全体のまとめ	全体のまとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2時間を標準とする】実験結果の考察が、授業内で完了しない場合は、授業外でレポートの作成が必要。

**【テキスト（教科書）】**

講義の都度、資料を配布する。

**【参考書】**

左巻健男・市川智史編著「誰にでもできる環境調査マニュアル」東京書籍  
日本地学教育学会編著「地学教育基礎講座Ⅳ」ダイヤモンド社

**【成績評価の方法と基準】**

全日程出席必須。実験報告書および、実験態度より総合的に評価する。

※実験報告書 50%，平常点（授業参加の姿勢等）50%

**【学生の意見等からの気づき】**

知識と合わせて、スキルが身につくよう心がける。

**【Outline and objectives】**

We will conduct experiments, observations and outdoor practical training on the space, the atmosphere, the hydrosphere and the geosphere.

- ・ We will understand phenomena experientially
- ・ We will learn how to use observation equipment
- ・ We will learn how to analyze data using PC

